大 分 短 期 大 学

研　究　紀　要

第１７号

論　　文

X 線照射によるカキ果実中の種子数の判定

吉野賢一[1]・齊藤樹生[1]・伊藤江里子[1]

吉野朋生[2]・伊藤健文[2]・前田雄大[2]

（[1]大分短期大学・[2]株式会社ジェイテック）　……1

報　　告

「おおいたの大地でつくる秋やさい」講座の実施結果

摺崎　宏

（大分短期大学 園芸科）　……4

2017 年度 卒業生に対する卒業時アンケート結果

鍵和田又一

（大分短期大学自己点検・評価委員会）　……10

学生による授業評価（平成 30 年度）

小野宣幸・橋本裕輝

（大分短期大学自己点検・評価委員会）　……18

平成 30 年度 大分短期大学生の学習・生活実態

小石鉄兵

（大分短期大学自己点検・評価委員会）　……26

学校法人　平松学園

大　分　短　期　大　学

X 線照射によるカキ果実中の種子数の判定

吉野賢一[1]・齊藤樹生[1]・伊藤江里子[1]

吉野朋生[2]・伊藤健文[2]・前田雄大[2]

([1]大分短期大学園芸科・[2]株式会社ジェイテック)

Determination of the number of seeds in a persimmon fruit
by X-ray irradiation

Ken-ichi YOSHINO, Tatuki SAITO, Eriko ITO,
Tomoo YOSHINO, Takefumi ITO, Yudai MAEDA

要 約

不完全甘柿は, 果実の種子数が少ないと渋果になる. 全果実を甘柿で出荷するため, 渋果(種子数の少ない果実)を除去する必要がある. そこで, 果実中の種子数を非破壊で判定する技術の確立が望まれている.

本研究の結果, X 線照射によって, カキ果実中の種子数を判定する方法を開発した.

キーワード: カキ 不完全甘柿 種子数 X 線照射 非破壊検査

緒 言

カキの品種'西村早生'は, カキの園芸品種群の中で, 不完全甘ガキ(pollination-variant and astringent:PVA)に分類され[1)], 果実中に含まれる種子数の多少が甘・渋を決定する. 種子数が一果当たり 5 個以上であれば, 甘ガキとなる[2)].

そこで, 全果実を甘柿で出荷するため, 渋果(種子数の少ない果実)を除去する必要がある. そのため, 果実中の種子数を非破壊で判定する技術の確立が望まれている.

これまで, 出荷前の果実に, 電燈等による光照射を行い, 種子数の判定を試みたが, 判然とせず, 実用的でなかった.

生産者は, 果形や着色から「経験と感」で甘・渋を判別し, 出荷してきた. そのため, 渋い果実が混入するリスクを伴って販売されている.

そこで, 本研究ではカキ果実を供試して, X 線照射によって, 果実中の種子数を判定する方法を開発したので報告する.

材料および方法

平成 30 年 11 月 30 日，大分短期大学・附属農場滝尾実験実習場の，カキの品種‘富有‘7 年生樹から採取した果実 5 個を用いた．

X 線照射用の機材は，株式会社ジェイテック（以下，ジェイテック）所有の備品で，上記農場に持ち込んで実験した．X線解析装置は VDISCO 社．型式：RayzorXP，（サイズ：360×330×13mm）（図 1）で，X 線照射機はゴールデン エンジニアリング社（US)製，型式：XRS-3．（最大光子エネルギー270KVp，サイズ：356×115×190mm）（図 2）であった．フラットパネル板の上に，ヘタ部を上にして果実を置き，上方向から X 線を照射した．

本照射機は，1～99パルスの照射機能を持っており，ジェイテックの放射線技術者・吉野朋生は，果実 1 個の線量当量（SV）[注1] を，これまでの企業における非破壊検査の経験と技術を活かし，まず，1～10 パルスの範囲内で試行実験を行った． 照射距離についても試行した．

図 1 X 線画像解析装置，型式：RayzorXP

図 2 X 線照射機，型式：XRS-3

以上の結果から， 30cm の距離で，X 線を 5 パルスで照射することにした．この時の線量当量は，果実 1 個当たり 145 μ SV であった． 果実1個あたり線量当量 145 μ SV は，SV≒Gy [注2]で換算すると 145 μ Gy となる．

X 線照射中は．線源から半径 5m 以内に、人が立ち入らないよう留意した．

得られたカキ果実の X 線画像を同じ果実の横断面（X 線照射後ナイフで切断）と比較し，種子の映像等を分析した．

図 3 X線照射したカキ果実の横断面
（種子 5 個を含む）

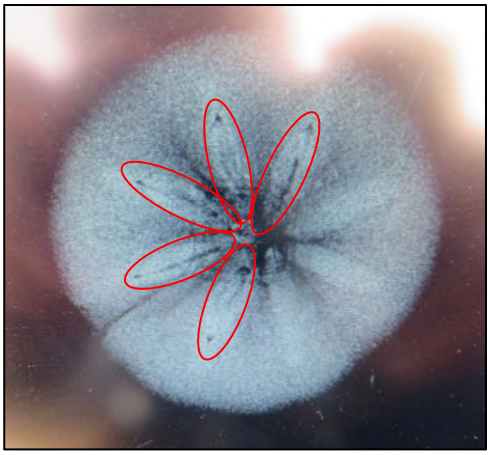


図4 X線照射したカキ果実のX線画像

注 1:シーベルト(SV:sievert)は，放射線の人体や生物に対する線量当量の単位.

注 2:グレイ(Gy: gray)は，吸収線量を測る単位.

結果及び考察

カキ果実を透過したX線が，フラットパネルを通してパソコン画面上に画像として映しだされた.

照射した果実の横断面(図 3)と，同果実の X 線画像(図 4)を比べると，X 線画像では，種子有りの部分は無種子の部分と比較して，種子の中央部分に黒い線が細く映し出されている. この黒い線は胚(子葉，胚軸，幼根)が周囲の胚乳と比較して，X 線照射による X 線の減衰が小さい(透過線量が大きい)ため、黒く線状に映し出されたものと考えられる. この黒い線の有無によって，種子の有無を確認できる.

このようにして，図 4 の X 線画像では，横断面と同じく，5 個の種子が確認される.

以上，カキ果実へ X 線を照射し，画像解析した結果，果実内の種子数を非破壊で確認することができた.

カキの産地では，成熟した果実を，収穫後まず家庭選果を行い，共同選果場に持ち込む.

ここで，X 線による非破壊で種子数を判定し甘・渋果を選別することができれば，渋果混入のリスクを除くことができる. さらに，分別された種子数が少ない渋果は，炭酸ガス等で共同脱渋して，販売に供することができると考える.

なお，食品衛生法による「食品の製造工程又は加工食品衛生法による「食品の製造工程又は加工工程の管理」規定によると，「食品の製造又は加工において，その管理を行う場合には，食品への放射線照射は認められている. その場合，食品の吸収線量が，0.10 グレイ以下でなければならない」とされている.

本研究でのカキ果実 1 個当たりの X 線吸収線量は，145 μ Gy であることから，食品衛生法の基準以下であり. 本，非破壊的種子数判定法は，安全で実用的な方法である.

謝辞

板村裕之，島根大学名誉教授には，従来のカキ果実中の種子判定についてご示唆頂き、衷心より感謝とお礼を申し上げる。

また，今回の共同研究にご協力を頂いた，株式会社ジェイテック，阿部清治代表はじめスタッフに衷心より感謝とお礼を申し上げる.

参考文献

1. 米森敬三編集. 2015. 果樹園芸学. 朝倉書店. p20.

2. 中村三夫・福井博一共著. 1994. カキの生理生態と栽培新技術. pp56-59. 誠文堂新光社.

3. 田中修著. 2012. タネのふしぎ. ソフトバンク クリエイティブ. p133.

4. 鈴木正彦編著. 2012. 園芸学の基礎. 農文協. p69.

おおいたの大地でつくる秋やさい講座[注1)]の実施報告

摺崎　宏
（大分短期大学　園芸科）

Report on activities of the class “Autumn vegetable growing on the ground of Oita”

Hiroshi SURIZAKI
(Oita Junior College)

要　約

「おおいたの大地でつくる秋やさい」講座を、大分県の委託事業「地域連携課題解決支援事業」である大学等による「おおいた創生」推進協議会の地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 B「おおいたプロモーション」プログラム２０１８の採択を受け実施した。平成 30 年 9 月から 12 月までの 4 ヶ月間にわたって大分短期大学園芸科滝尾実験実習場でハクサイやダイコンなどの秋野菜を栽培した。参加者は 7 名であった。

本講座に対する参加者の興味・関心はとても高く、講座終了時のアンケートでは満足度が高かった。参加者は今回の秋野菜栽培体験を通じて、大分の大地に触れ大分の土に親しむとともに「育てる」「収穫する」喜びを体感したことで、地元大分への愛着と大分に暮らす喜びと魅力を再発見できたと考えられる。

キーワード: 地方創生　大分の大地　秋野菜

緒　言

大分短期大学は、平成 29 年 10 月に地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）の運営組織である、大学等による「大分創生」推進協議会へ入会した。本協議会は、地方創生の地（知）の拠点として、県内大学等、地方公共団体や企業、ＮＰＯ、民間団体等と協働し、地域で活躍する人材の育成や大学を核とした地域産業の活性化、地方への人口集積等を推進することを目標としている。

「地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 B」おおいたプロモーションプログラム２０１８は、大学等による「おおいた創生」推進協議会が COC＋事業の一環として、平成 28 年度から大分県の支援で実施している事業で、大分の「まち」及び「職場」の認知度を高め、特色を出し、それらが持続的に発展する環境をつくる人づくりに関して幅広い内容で募集し、地域に貢献できる人材の育成や職場定着を目的としている。

「おおいたの大地でつくる秋野菜」は平成 30 年度の事業に採択された。本講座は、大分の大地を舞台にした秋野菜栽培体験を通じて、「育てる」「収穫する」喜びを体感し、大分への愛着と大分に暮らす喜び・魅力を再発見することを目的として実施した。今回、本講座の実施結果について報告する。

注1)「地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 B 」おおいたプロモーション」プログラム２０１８の一つとして実施した講座である。

材料および方法

実習を伴う講座であることから、受講定員は少人数の 10 名とした。受講を呼びかけるために地元新聞紙にイベント掲載を依頼し、地元種苗会社（キクチ種苗（株））に受講生募集案内チラシの配布をお願いした。また、大分短期大学の市民講座の受講者にも受講を呼びかけた。

本講座のスケジュールを表 1 に示した。第 1 回の講座は座学とし、第 2 回から第 5 回の講座は大分短期大学滝尾実験実習場での実習とした。第 1 回の講座では、野菜の土づくりのポイントと教材に用いる野菜の特性と育て方について教示した。

講座で栽培した野菜は、12 種類 17 品種である（表 2）。９月上旬に播種しても講座期間中に収穫まで至らないと考えられたハクサイ、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリーについては苗を購入して植え付けた。また、必要に応じてビニールマルチや不織布、農薬を用いて土壌の保温と病害虫防除を行なった。

第 5 回の講座終了後に意見交換会を行い、COC＋から依頼のあったアンケート調査（統一様式）を実施した。アンケートの内容は図 1 に示した。

結果

本講座への申し込みは当初 5 名であったが、その後 2 名の追加申し込みがあり、最終的に 7 名が参加した。

1. 講座の実施結果

第 1 回講座（講義）　土づくりのポイントと秋まき（秋植え）野菜の特徴・栽培方法について説明した（図 2）。

第 2 回講座（実習）　堆肥と化成肥料による土づくりの後、野菜苗（ハクサイ、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、九条ネギ）の定植、ジャガイモの種イモの植え付けを行った。数日前から雨天が続き、土壌が少々ぬかるんでいて作業しずらい状況であった。気温が高い時期の定植ということで殺虫剤の散布の利点を説明した（図 3-1、2）。畝を作っては種をする予定であったが作業を行う時間がなく、次回の講座（第 3 回）に持ち越すこととした。

図 2 土作りと秋野菜栽培の説明（第 1 回講座）

図 3-1 土づくり（第 2 回講座）

図 3-2 苗の定植作業（第 2 回講座）

第 3 回講座（実習）　第 2 回講座に引き続き、土づくりと施肥設計についての講習を行った。また、マルチング（黒ビニールマルチ）の特徴と使い方についても解説した。第 3 回講座では、ダイコンの間引き（図 4）、ニンニク球根の植え付け（図 5）、シュンギク、ホウレンソウ、カブ、ダイコンの播種（図 6）、カブの除草作業（図 7）を行った。

図 4 ダイコンの引き作業（第 3 回講座）

図 5 ニンニク種球の植え付け作業（第 3 回講座）

図 6 カブなどの播種作業（第 3 回講座）

図 7 カブの除草作業（第 3 回講座）

第 4 回講座（実習）　受講生らは野菜の成長の速さに驚いていた（図 8）。紫ダイコン、カブの一部を収穫した（図 9）。シュンギクは間引き作業を行った（図 10）。また、各野菜に追肥をした。

タマネギの苗は定植適期になったことから、希望者に配布し、教材として家庭で栽培してもらうことにした。

図 8 11 月 17 日の圃場の様子（第 4 回講座）

図 9 収穫した紫ダイコンとカブ（第 4 回講座）

図 10 シュンギクの間引き（第 4 回講座）

第 5 回講座（実習）　最後の授業となり、すべての野菜を収穫した（図 11-1、2、3、4）。収穫した一部の野菜は豚汁にして試食した（図 12）。受講生の満足度は高く、今後、夏野菜栽培の講座も開催してほしいという意見が多く聞かれた。

図 11-1 収穫作業の様子①（第 5 回講座）

図 11-2 収穫作業の様子②（第 5 回講座）

図 11-3 収穫作業の様子③（第 5 回講座）

図 11-4 収穫作業の様子④（第 5 回講座）

図 12 収穫した野菜の試食会（第 5 回講座）

2.　アンケート調査の結果

質問 1～4

　参加者 7 名の男女の内訳は男性が 2 名、女性が 6 名であった。年齢は 7 名全員が 50 才以上であった。居住地は大分市が 5 名、その他が 2 名（国東市、日出町）であった。職業は会社員が 1 名、その他が 6

名（無職３名、アルバイト１名、主婦２名）であった。公務員や学生はいなかった。

質問５

講座への受講目的は、自己研鑽が６名、その他が１名（「実戦でやさい作りを学びたかったから」）であった。「仕事に役立てたい」という選択肢を選んだ人はいなかった。

質問６、７

本講座の満足度については７名全員が「満足」と回答し、「どちらかといえば満足」「どちらかといえば満足していない」「満足していない」と回答した人はいなかった。「満足」と回答した理由については、以下の記述があった。

- 講座の語りだけでなく、実戦で覚えたことが多く、わからないことなど質問でき、毎回楽しく活動できたから。
- 専門的に学べ、今後の役に立つと思ったから。
- ゆったりとした日程だけど割と充実していました。年配の方が多かったから他の人への思いやりもあり作業も結構段取りよく進み感心しました。
- 栽培の流れがよくわかりました。
- 多種類の野菜をタネからまき育てることができた。自然の中での作業が楽しかった。
- 野菜の作り方を種まきから教えてもらったこと。
- 初めてのことで知らないことが知れて面白かった。野菜づくり（成長・肥料・土）の大変さを実感でき、奥深さを知った。

質問８

- このような講座で今後受講したい分野については６名が「食品分野」と回答し、ついで「観光分野」が２名、「経済分野」「美容分野」「IT 分野」がそれぞれ１名、「その他」が２名（花、果樹）であった。

質問９

本講座に対する要望や意見については、以下の記述があった。

- 参加できて本当に良かった。
- また、実施してほしい。
- 毎年研修会を開いてほしい。有料でもいい。
- 一年を通しての講座があればいい。
- 参加して大変良かった。
- 食べることは楽しいと知った。

考察

受講生の本講座を受講した目的は大多数が「自己研鑽」であった。受講生の本講座を受講した満足度は、とても高かく、受講生全員が「満足」と回答した。本講座は受講生の受講目的を達成したと考えられる。

講座開講中は、雨天となり予定を変更せざる得ない日があった。特に２回目の講座は播種を計画していたので、実際に播種するのが遅くなり講座の計画に支障を来した。最終的にはなんとか収穫することができたが、今後、本講座のような自然を対象とした野外で活動する講座については、雨天になることを考慮し綿密な計画を立てなければならないであろう。

今回の講座は、４ヶ月にわたる播種から収穫までの一連の栽培体験講座であった。しかし、講座の開催頻度としては月に一回であり断片的な学習であった。また、受講者の各回の出席状況は概ね良好だったが、時折欠席する人も見られた。本講座では植物の成長過程を学習することが目的の一つである。講座開催日以外にも、いつでも自由に植物を観察・栽培管理できるような講座の運営体制を構築することが課題である。

栽培に供した野菜の種類は概ね適切であった。しかし、カリフラワーとブロッコリーについては、収穫を予定していた講義日が雨天で延期となったため適期に収穫できなかった。秋から冬に収穫する野菜は在圃性のあるものが多いが、カリフラワーとブロッコリーについては収穫期間が限られているので栽培教材としては注意が必要である。

受講生からは、夏野菜の栽培講座を希望する声が多く寄せられた。夏野菜は病害虫防除が秋野菜以上に必要となる。月１回の講座では難しいかもしれない。今後の課題としたい。

これまで大分短期大学では、播種から収穫まで一貫して体験できる野菜栽培の市民講座がなかった。今回初めて収穫まで体験できる実地の講座を開講したが、予想以上に受講者の評価が高かった。これからも育てる喜び・収穫の喜びを体験できる栽培プログラムを開発していきたい。

表１「おおいたの大地でつくる秋やさい」講座のスケジュール

回	月日（曜日）	時間	内容	実施場所
1	9/1（土）	9：00～12：10	講義：土作りと秋やさいの栽培方法	大分短期大学校舎 （大分市千代町）
2	9/15（土）	9：00～12：10	実習：種まきと苗の定植	大分短期大学 滝尾実験実習場 （大分市津守長山）
3	10/20（土）	9：00～12：10	実習：野菜の管理 （追肥、除草、病害虫防除など）	
4	11/17（土）	9：00～12：10	実習：野菜の管理 （追肥、除草、病害虫防除など）	
5	12/15（土）	9：00～12：10	実習：収穫（意見交換会、アンケート）	

表２「おおいたの大地でつくる秋やさい」講座で栽培した野菜の種類と品種

野菜の種類	品種	野菜の種類	品種
ダイコン	紅心ダイコン	ホウレンソウ	クロノス
	耐病総太り	ジャガイモ	デジマ
	ピリ辛味ダイコン		ニシユタカ
	京むらさき	ニンニク	平戸
カブ	耐病ひかり	タマネギ	貴錦
	あやめ雪	キャベツ	新藍
ハクサイ	黄ごころ	カリフラワー	カリフラワー
シュンギク	大葉春菊	ブッコリー	品種不明
ネギ	九条		

図１　アンケート調査の質問内容

様式⑤「おおいたプロモーション」プログラム２０１８　アンケート

（地方創生大学等連携プロジェクト支援事業）

「おおいたプロモーション」プログラム２０１８の講座を受講いただき，誠にありがとうございます。
今後の講座の改善に役立てるため，以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

事業名：＿＿＿＿＿＿＿＿

Q１．あなたの性別を教えてください。
　１．男性　２．女性

Q２．あなたの年齢を教えて下さい
　１．１０代　２．２０代　３．３０代　４．４０代　５．５０代以上

Q３．どちらからいらっしゃいましたか？
　１．大分市　２．別府市　３．由布市　４．その他（　　）

Q４．ご職業等を教えて下さい
　１．会社員　２．公務員　３．学生　４．その他（　　）
　（ご回答が１，２の方は，就職してからの年数　　年）

Q５．どのような目的で受講されましたか？
　１．仕事に役立てたい　２．自己研鑽　３．その他（　　）

Q６．本講座の満足度を教えて下さい
　１．満足　２．どちらかといえば満足　３．どちらかといえば満足していない
　４．満足していない

Q７．Q６で回答した理由を教えてください

Q８．このような講座で今後受講したい分野を教えてください（複数選択可）
　□歴史分野　□食品分野　□経済分野　□美容分野　□ＩＴ分野
　□観光分野　□町おこし
　□その他（　　）
　□特になし

Q９．本講座に関して要望や意見等ありましたらご記入下さい。

※　アンケートへのご協力ありがとうございました。

2017 年度卒業生に対する卒業時アンケート結果

鍵和田　又一

（大分短期大学　園芸科）

Graduate questionnaire result

Matakazu Kagiwada
（Oita junior collage）

要　約

2017 年度の大分短期大学卒業生を対象として卒業式前日にアンケート用紙を配布し，回答を願った．アンケートの回答人数は 41 名で,アンケート回収率は 100％であった．

「短大卒業時点での知識能力」「在学中に受けた大分短期大学の教育内容」「在学中に受けた大分短期大学の教育の「英語能力」の習得度」及び「短大の学習・教育目標の重要度」は非常に高く評価された．「短大生活のなかでの大学教育への取り組み」では，「専門科目の講義」「専門科目の実習」「ゼミナール活動」及び「就職・進路活動」の項目は高く、「読書」「学友会・サークル活動」の項目では低いという 2015 年度及び 2016 年度の報告と 2017 年度が同様の結果であった．また，「短大生生活のなかで大学教育への興味」や「短大生活のなかで学んだ分野の意義」で 2015 年度から 2017 年度の調査結果を比較すると，「バイオ」「園芸療法」の分野において「受講せず」を選んだ者が多くいた．このことは、「バイオ」や「園芸療法」「林業」を経験させる内容を講義や実習に盛り込む必要があると考えられる．さらに，在学中に受けた大分短期大学の教育内容において　2015 年度から 2017 年度の調査結果と比較すると「英語能力」の分野で「十分」「やや十分」であると回答し学生が 2015 年度の 25％及び 2016 年度の 24％と比較すると，2017 年度は、48％と充実度が上がっていた．このことは教育の充実として向上していると考えられる．　将来の進路決定における短大の役割として，2015 年度から 2017 年度の調査結果と比較すると「その通りに進んだ」と回答した学生が 2015 年度の 85％及び 2016 年度の 83％と比較すると 2017％は 64％と減少したことは問題であると考えられる．しかし，異なる進路に進んだと回答した全ての学生は進路決定ができている．このことは，学生への指導のたまものだと考えられる．

今回の調査結果より、「読書」「学友会・サークル活動」なども充実させていく必要がある

キーワード：卒業生　アンケート　教育　進路　満足度　重要性

本調査の概要と目的

現代の大学では，社会の変化やそれに呼応して急激に変化する労働市場に対して，大学教育がどのように対応していくかを明確化することが求められているとともに，その成果が有益なものとなるように大学教育の質的な高度化が求められている．こうした要求に対して，大分短期大学では組織的な対応として，「卒業生に対するアンケート調査」を実施している．

今回，2017 年度卒業生に対してアンケート調査を行った結果を報告する．

調査対象者・調査方法

1. 調査対象者および回答数

2018 年 3 月に大分短期大学を卒業した 2017 年度卒業生を対象として実施した．調査対象人数は，45 名であった．アンケートの回答人数は 42 名であった．よって，アンケート回収率は 93.3%であった．

2. 調査方法

卒業式前日にアンケート用紙を配布し，回答を願った．アンケートの内容は 2013 年度に自己点検・評価委員会で検討したものであった．

3. アンケートの調査分析の論点

本アンケートは，卒業生からみた大学教育の意義を明らかにすることに主眼を置いているので，被験者には短大入学時から卒業時点までを振り返ってもらい回答してもらった．アンケートは7問で構成されている(アンケート用紙参照)．それらは以下の1)～5)の視点を反映させたものである．なお，箇条書きの括弧内は，各項目に対するアンケートの質問番号を表している．

1) 短大生時代の取り組み(Q1，Q2 興味，Q3 興味)
2) 卒業後の生活における短大生活の意義(Q2 有意義，Q3 有意義)
3) 学習・教育目標の達成などの評価(Q4)
4)将来の進路決定における短大の役割(Q5)
5) 現時点における短大生活の総合評価(Q6)
6) 卒業生よりの大分短期大学の教育への意見・要望

集計結果

1) 短大生時代の取り組み(Q1，Q2 興味，Q3 興味)

Q1　次のような授業に，あなたはどの程度まで熱心に取り組んでいましたか．

短大生生活のなかで大学教育への取り組みでは，「専門科目の講義」「専門科目の実習」「ゼミナール活動」の項目において，「熱心だった」「どちらかといえば熱心だった」と回答した者が 80%を占めていた．しかし，「読書」の項目では「熱心だった」「どちらかといえば熱心だった」を選んだ者が 30%を下回っていた．

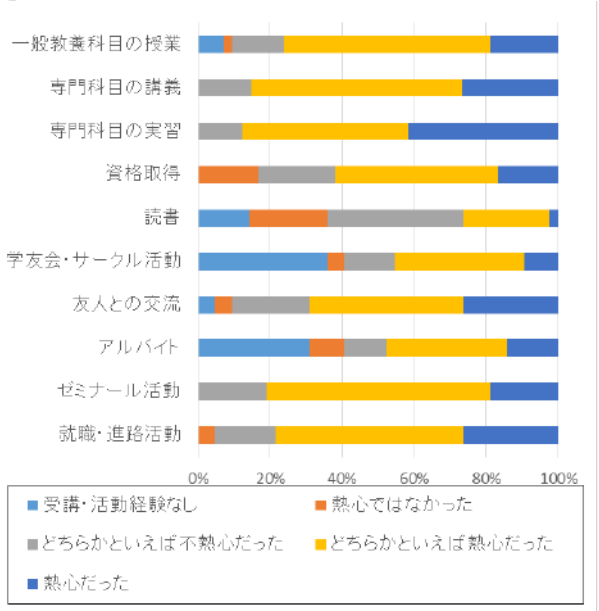


図 1　授業や活動への取り組み状況

Q2　興味大分短期大学在学中，興味深いまたは面白いと感じた分野を教えてください．

「花」「野菜」「果樹」「作物」の分野において，「興味深かった」「どちらかというと興味深かった」を選んだ者が 60%以上占めていた．また，「バイオ」「園芸療法」の分野において「受講せず」を選んだ者が約 50%いた．さらに，「林業」の分野においては 30%いた．

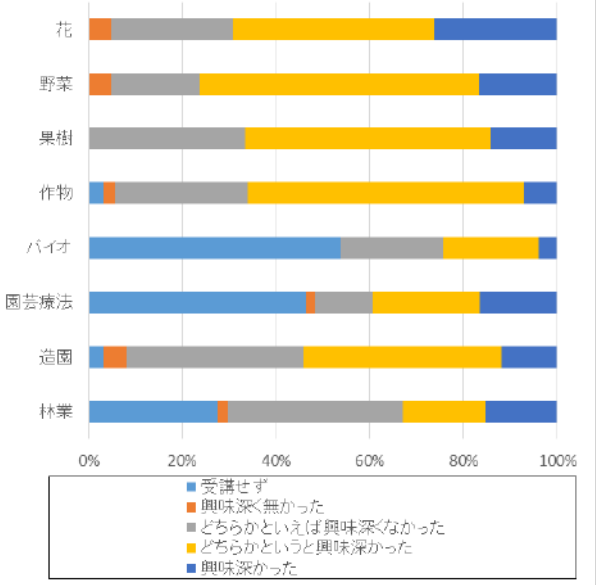


図2　大分短期大学在学中，興味深いまたは面白いと感じた分野

Q3 興味　短大卒業時点で以下のような知識能力をどの程度身に付けることができましたか

「資格取得」以外の活のなかで大学教育の修得では，全ての項目において「とても身についた」「やや身についた」を選んだ者が 80%以上を占めていた．

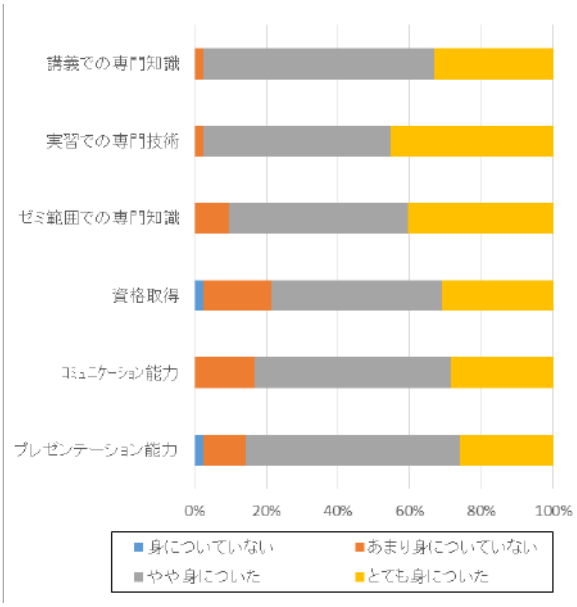


図 3　短大卒業時における知識能力の修得度

2) 卒業後の生活における短大生活の意義

Q2　有意義大分短期大学在学中，学んだ分野はどの程度有意義でしたか．

「花」「野菜」「果樹」において「有意義だった」「どちらかといえば有意義」を選ぶ者が 80%を越えていた．また，「バイオ」においては，「受講経験がない」と回答する卒業生が「バイオ」40%，「園芸療法」36%，「林業」21%を占めていた．

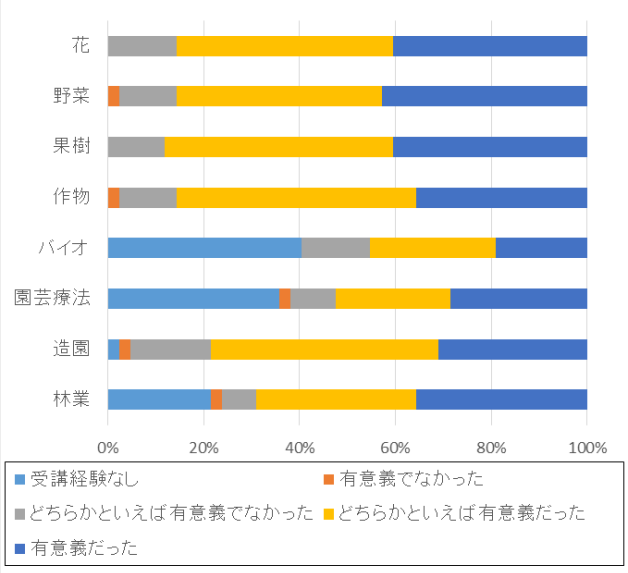


図 4　短大で学んだ分野の有意義度

Q3　有意義　短大卒業時点で以下のような知識能力はどの程度有意義でしたか．

すべての項目において「有意義」「どちらかといえば有意義」と感じている者が 90%以上を占めていた．特に「講義での専門知識」「実習での専門技術」「ゼミ範囲での専門知識」においては 6 割以上の学生が有意義と答えていた．

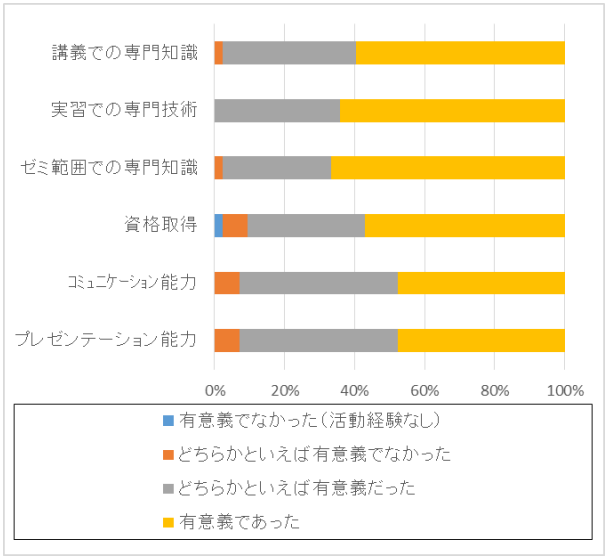


図 5　短大で学んだ知識能力の有意義度

3) 学習・教育目標の達成などの評価

Q4　重要度　短大の教育内容はどの程度重要性を感じていますか

「人・社会・自然と園芸の関わりの認識」「専攻に必要な基礎知識」「専攻に必要な専門知識」「広い視野，柔軟な適応能力や創造力」「高度情報化への適応」「日本語によるコミュニケーション」の項目において重要性を感じている者が 80%以上を占めていた．

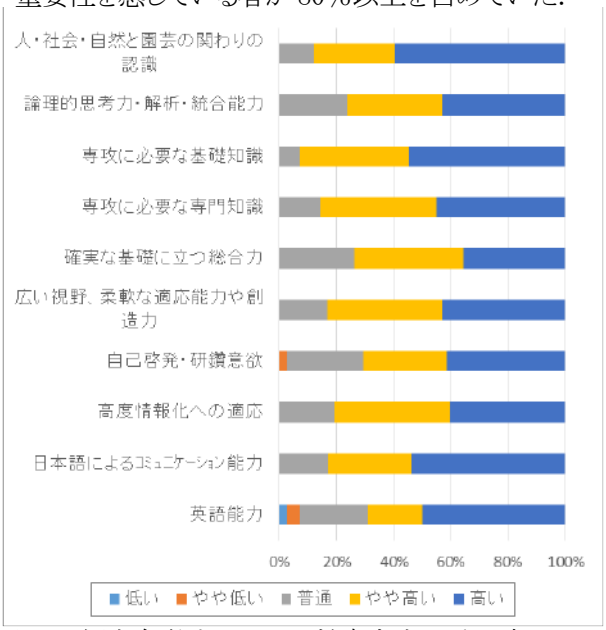


図 6　短大在学中における教育内容の重要度

Q4 教育内容　在学中に受けた大分短期大学の教育は十分なものでしたか

80%以上の被験者が重要だと感じた項目（図 6 参

照)で,「高度情報化への適応」以外の項目において大分短期大学の教育が「十分」「やや十分」と感じる者が 69%以上を占めていた. しかし,「高度情報化への適応」では、57%であった.

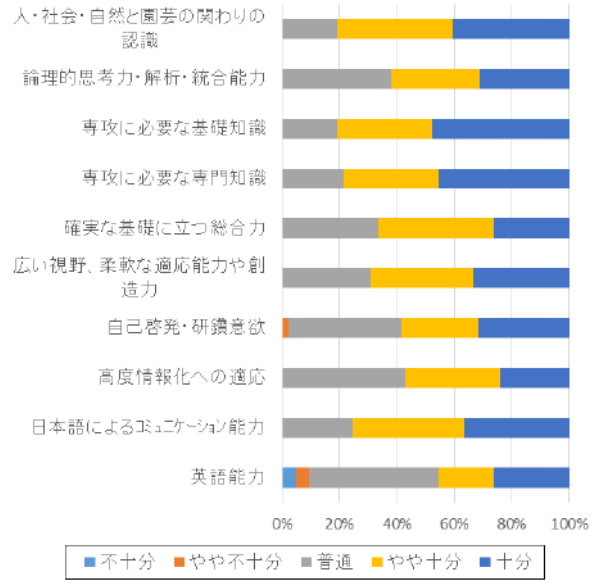


図 7　短大在学中における教育内容の充実度

Q4　達成度　在学中に受けた大分短期大学の教育から各項目をどの程度身に付けることができましたか.

「人・社会・自然と園芸の関わりの認識」「専攻に必要な基礎知識」の項目は「十分」「やや十分」と回答している被験者が 80%と高かった. しかし,「英語能力」の習得度としては「やや十分」「十分」と感じているのが 40%以下と最も低い. また,「論理的思考力・解析・統合能力」「自己啓発・研鑽意欲」「高度情報化への適応」「日本語によるコミュニュケーション」においては, 約半数の学生が「普通」「やや不十分」「不十分」だと感じている者がいた.

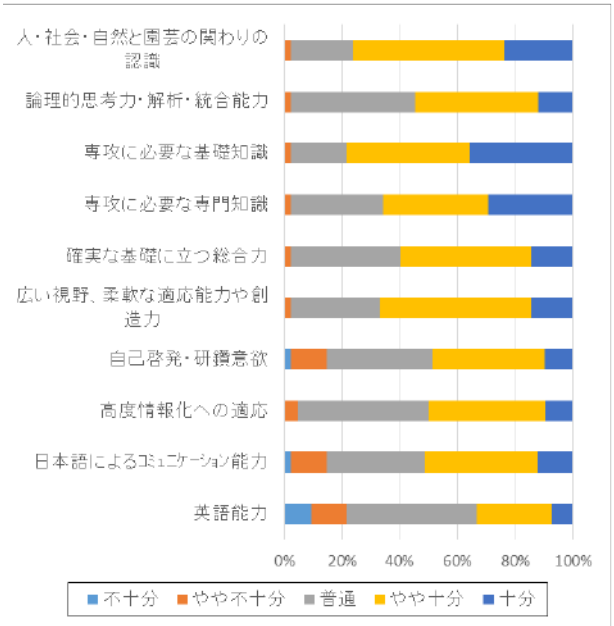


図 8　短大在学中における教育内容の達成度

4)　将来の進路決定における短大の役割

Q5　あなたは大分短期大学に入学する以前の段階で, 将来の進路を決めていましたか

入学する以前の段階で, 将来の進路について「はっきりと決めていた」が 31.0%,「ある程度決めていた」が 50.0%,「決めていなかった」が 19.0%であった. したがって, 入学時において約 80%の学生が将来への進路を決めて入学していた.

表 1　短大入学時における将来の進路

	はっきり決めていた	ある程度まで決めていた	決めていなかった
人数	13	21	8
構成比	31.0%	50.0%	19.0%

Q5「はっきり・またはある程度まで決めていた方」のみ, その進路はどのようなものでしたか

将来の進路をはっきりまたはある程度決めていた入学者の 73.5%が4年生大学編入学を希望していた. また, 公務員は 2.9%であった. さらに専門職を考えていた学生は 23.5%であった.

表 2　入学時における希望進路

	4年生大学編入	公務員	専門職	その他民間企業
人数	25	1	8	0
構成比	73.5%	2.9%	23.5%	0.0%

Q5「はっきり・またはある程度まで決めていた方」のみ, あなたはその通りの進路に進みましたか

自分の希望していた進路に進む学生は 63.6%であった.

表 3　入学時の希望進路へ進む割合

	その通り進んだ	異なる進路に進んだ
人数	21	12
構成比	63.6%	36.4%

Q5「決めていなかった方」のみ, 大分短期大学在学中に, 将来の希望進路をみつけることができましたか

入学前に将来の進路が決まっていなかった学生のうち「見つけることができた」が 37.5%で,「ある程度みつけることができた」が 37.5%であった. しかし, 25%の卒業生が見つけられなかった.

表 4　在学中に希望進路を見いだせたか

	見つけることができた	ある程度見つけることができた	みつけられなかった
人数	3	3	2
構成比	37.5%	37.5%	25%

5) 現時点における短大生活の総合評価

Q6 重要度 あなたの現在の人生・生き方を決めていく中で，どのくらいの重要性がありましたか

大分短期大学の人生における重要性は「重要だった」「やや重要だった」を選んだ卒業生が 88%であった(表-5)．

表 5 人生における短期大学の重要度

	重要だった	やや重要だった	どちらともいえない	あまり重要でなかった	重要でなかった
人数	24	13	5	0	0
構成比	57.1%	31.0%	11.9%	0%	0%

Q6 満足度 振り返ってみて，短大における学生生活は満足でしたか．

学生生活における満足度は，「満足だった」「やや満足だった」を選んだ学生が 90.5%であった(表-6)．

表 6 学生生活を振り返っての満足度

	満足だった	やや満足であった	どちらともいえない	あまり満足でなかった	満足でなかった
人数	22	16	3	0	1
構成比	52.4%	38.1%	7.1%	0.0%	2%

Q6 推薦度 知人・友人もしくはあなたの子供に，短大に進学することを勧めますか

短大への進学を知人などに勧めるかにおいては，「勧める」「やや勧める」が 88.1%であった(表-7)．

表 8 大分短期大学への進学を推薦するか

	勧める	やや勧める	あまり勧めない	勧めない
人数	14	23	1	4
構成比	33.3%	54.8%	2.4%	9.5%

6)今後の大分短期大学の教育において，なにかご意見・要望があればご自由にお書きください．

自由記述欄はなかった

考察

短大生活のなかでの大学教育への取り組みについて,2015 年度から 2017 年度の調査結果を比較すると「専門科目の講義」「専門科目の実習」「ゼミナール活動」「就職・進路活動」の項目は全て 70%以上と高評価であった．しかし、「読書」「学友会・サークル活動」の項目では 3 ヶ年全てで 45%低いという同様の結果であった．この2項目については，啓蒙していく必要があると考えられる．

短大生生活のなかで大学教育への興味において，2015 年度から 2017 年度の調査結果を比較すると「果樹」「野菜」「花」の分野に興味を持つ学生の割合が 65%以上と3ヶ年とも高く，「バイオ」「園芸療法」の分野において「受講せず」を選んだ者が多くいた．このことは、「バイオ」や「園芸療法」「林業」を経験させる内容を講義や実習に盛り込む必要があると考えられる．

短大生活のなかで教育内容の修得において，2015 年度から 2017 年度においては全ての項目で 78%以上の高評価であった．このことより，短大での教育内容の修得度には問題がないと考えられる．

短大の学習・教育目標の重要度において、2015 年度から 2017 年度の3ヶ年調査ともに70%以上の学生が重要と感じている結果であった。

在学中に受けた大分短期大学の教育内容において 2015 年度から 2017 年度の調査結果と比較すると「英語能力」の分野で 「十分」「やや十分」であると回答し学生が 2015 年度の 25%及び 2016 年度の 24%と比較すると，2017 年度は、48%と充実度が上がっていた．このことは教育の充実として向上していると考えられる，

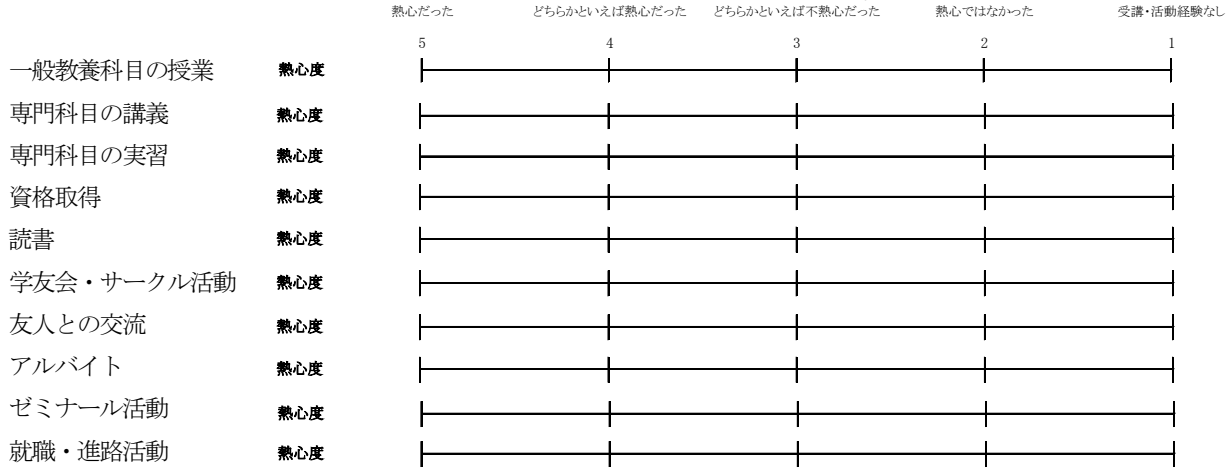
将来の進路決定における短大の役割として，2015 年度から 2017 年度の調査結果と比較すると「その通りに進んだ」と回答した学生が 2015 年度の 85%及び 2016 年度の 83%と比較すると 2017%は 64%と減少したことは問題であると考えられる．しかし，異なる進路に進んだと回答した全ての学生は進路決定ができている．このことは，学生への指導のたまものだと考えられる．

番　　氏名 _____

進学・就職先 _____

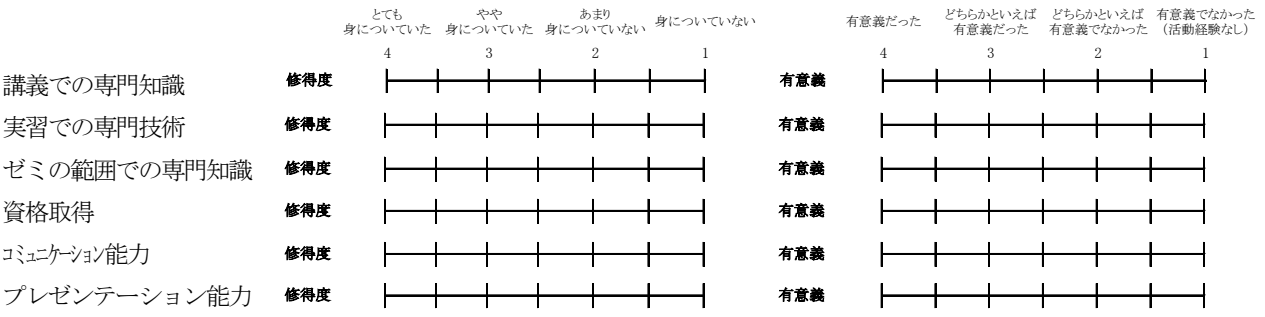
大分短期大学卒業生への質問項目

１．次のような授業や活動に、あなたはどの程度まで熱心に取り組んでいましたか（Q1）。



２．大分短期大学在学中、興味深いまたは面白いと感じた分野を教えてください（Q2 興味）。また、どの程度有意義でしたか。（Q2 有意義）

３．短大卒業時点で以下のような知識能力をどの程度身につけることができましたか（Q3 興味）。また、どの程度有意義でしたか（Q3 有意義）。

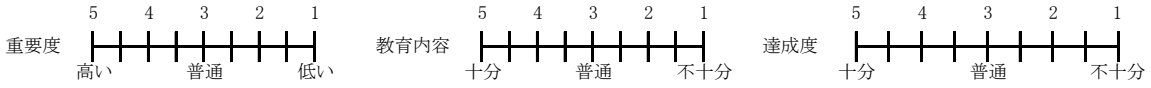


４．学習・教育目標の達成度などの評価

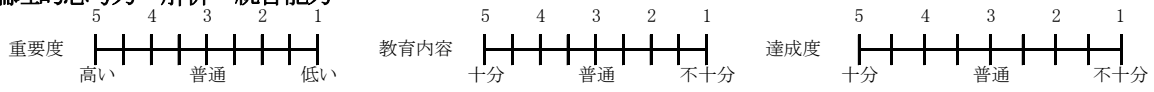
現在、大分短期大学を卒業して、下記の 10 項目について次の３つの観点から評価をお願いします。

重要度　：卒業してすぐにどの程度の重要性を感じていますか（Q4 重要度）。
教育内容　：在学中に受けた大分短期大学の教育は十分なものでしたか（Q4 教育内容）。
達成度　：在学中に受けた大分短期大学の教育から各項目をどの程度身につけることができましたか（Q4 達成度）。

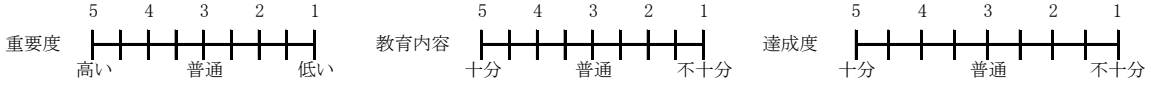
（1）　人・社会・自然と園芸（花・野菜・果樹・作物・造園・林業）の関わりの認識



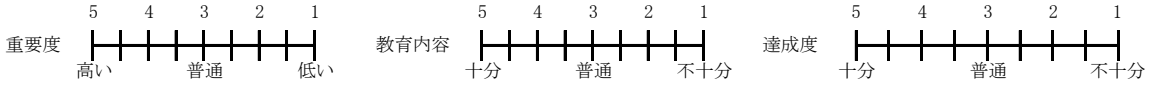
（2）　論理的思考力・解析・統合能力



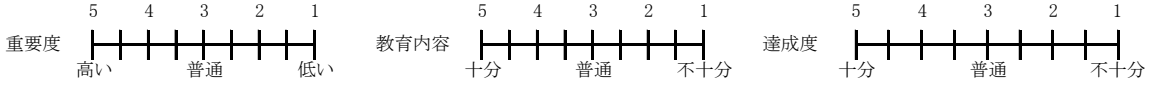
（3）　専攻（花・野菜・果樹・作物・造園・林業）に必要な基礎的知識　※専攻に○印をつけてください



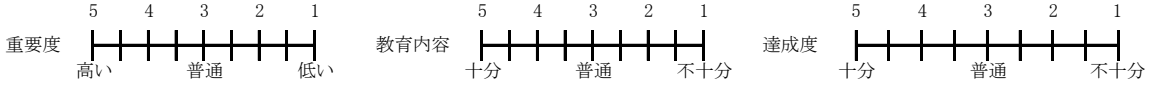
（4）　専攻（花・野菜・果樹・作物・造園・林業）に必要な専門的知識　※専攻に○印をつけてください



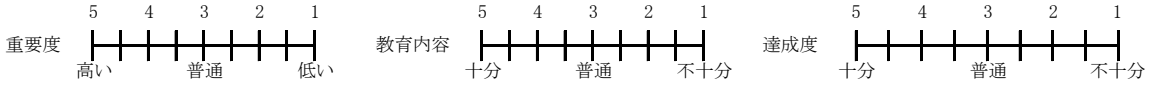
（5）確実な基礎に立つ総合力



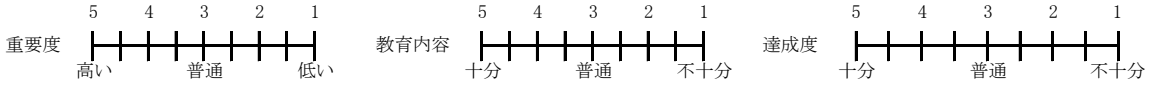
（6）広い視野、柔軟な適応能力や創造力



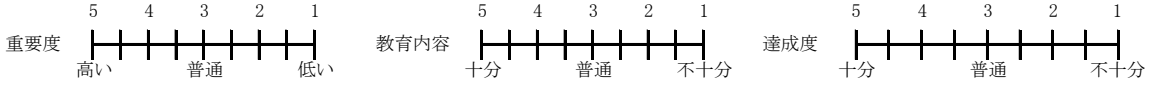
（7）自己啓発・研鑽意欲



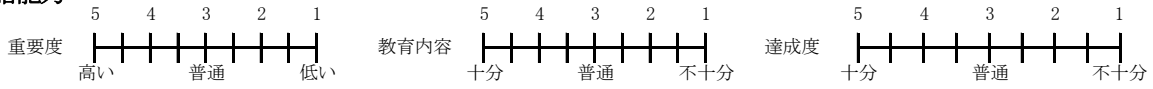
（8）高度情報化への適応



（9）日本語によるコミュニケーション能力



（10）英語能力



５．あなたは大分短期大学に入学する以前の段階で、将来の進路を決めていましたか（Q5）。

a　はっきりと決めていた　　b　ある程度まで決めていた　　c　決めていなかった

①　はっきり、またはある程度まで決めていた方のみ　その進路はどのようなものでしたか（Q5 希望進路）

a)４年制大学編入　b)公務員　c)専門職（農業　園芸　造園　林業）　d)その他民間企業　e)自営

②はっきり、またはある程度まで決めていた方のみ　あなたはその通りの進路に進みましたか（Q5 進路割合）

a) その通りの進路に進んだ　　b) 異なる進路に進んだ

③　決めていなかったのみ　大分短期大学在学中に、将来の進路希望をみつけることができましたか（Q5）

a) 見つけることができた　　b) ある程度見つけることができた　c) 見つけられなかった

６．大分短期大学で過ごした学生時代の２年間についてお聞きします（Q6）。

①　あなたの現在の人生・生き方を決めていく中で、どのくらいの重要性がありましたか（Q6 重要度）

a) 重要だった　b) やや需要だった　c) どちらともいえない　d) あまり重要でなかった　e) 重要でなかった

②　振りかえってみて、短大における学生生活は満足でしたか（Q6 満足度）

a) 満足だった　b) やや満足であった　c) どちらともいえない　d) あまり満足でなかった　e) 満足でなかった

③　知人・友人もしくはあなたの子供に、短大に進学することを勧めますか（Q6 推薦度）

a) 勧める　b) やや勧める　　c) あまり勧めない　d) 勧めない

７．今後の大分短期大学の教育について、なにかご意見・要望があればご自由にお書き下さい。

学生による授業評価(平成 30 年度)

小野　宣幸・橋本　裕輝
(大分短期大学自己点検・評価委員会)

Student Evaluation of Teaching in 2018

Ono NOBUYUKI, Yuki HASHIMOTO
(The Board of Self-Inspection/Assessment, OITA JUNIOR COLLEGE)

要　旨

授業の現状の理解と改善を目的とし，平成 30 年度の前期後期で開講した全ての授業について，学生による授業評価を実施した．
その結果，学生による授業評価は 1, 2 年前後期通して概ね良好であった．また，建設的な意見も得られた．今回の結果を各科目の担当教員にフィードバックし，これからの授業の改善に活用する．

キーワード:授業評価　アンケート　授業改善

緒　言

本学では学生による授業評価を平成 16 年度から毎期実施しており，授業の改善に役立てている．本報告では平成 30 年度の授業評価の結果について報告する．

調査方法

平成30年度の学生による授業評価を，学生を対象として本学で開講された全ての科目(講義，演習，実験実習，実技科目を含む)に対して実施した．前後期とも全授業終了後，1, 2 年生の全学生が履修した授業についてアンケートにより評価した．

アンケートの質問は11項目で，各項目を５段階から３段階(一部２段階)評価とした．各項目に理由を記入する欄を設けた．その他，学生の率直な意見がきけるように自由記述欄を設定した(図 1)．

結果および考察

アンケートは全授業の終了後に記入をしてもらい，同時間に回収した． アンケートの回収率は1年前期では100%，後期では94%，2年の前期では100%，後期では100%だった．

アンケート結果を項目別に表 1～4 に示す．

1．1 年生対象科目への評価

1)自己評価(自身の授業への取り組み) (表 1)

項目 1 の出席状況についての評価は前期では「全出席」と答えた学生が約70％～90％と多く，良好であった．後期では「全出席」の割合の教科が減り，「ときどき休んだ」と「ほぼ休んだ」の割合が多くなった．

項目 2 の予復習については，前期では，概ね「普通」が最も多かった．特に森林経営，人-農業・園芸・環境関係論，園芸学総論，園芸実験実習Ⅰ，英語Ⅰでは「意欲的」の割合が約50％以上と多かった．人-農業・園芸・環境関係論については，この授業は他の通常の授業とは違い，授業のほぼ全てを自分たちで行わなければならず，準備や予習が欠かせないものだったためと考えられる．園芸実験実習Ⅰについては，農業高校出身以外の学生の入学の割合が多く，初めて農業，園芸について知るため，予習復習の割合が多くなったためと考えられる．また，実習後には実習の内容と感想をノートに書き，提出することが必須である．そのため，義務的ではあるが，復習の機会が与えられたためと考えられる．英語Ⅰについては編入を志望する学生が多く受講しており，編入に対する意識が高いためと考えられる．森林経営については，公務員試験の林業の分野で受験する学生がいるためと考えられる．後期は前期よりも「意欲的」が少なくなり，「普通」の割合が多くなった．「意欲的」が約50％の教科は英語Ⅱと花卉装飾学演習

だけであり，英語Ⅱは編入後に英語が必要になるため予習復習を意欲的にした学生が多かったものと思われる．また，花卉装飾学演習については受講するにあたり，寸法などを覚える必要があったためと考えられる．

項目 3 の課題への取り組みについては，前期ではほとんどの科目で「意欲的」が約50％を越えていた．しかし，後期では「意欲的」の科目は少なくなり，「普通」の割合が多い科目が多くなった．併せて「消極的」の割合も多くなった．これは学生生活にも慣れ，授業に対してマンネリ化してしまい，消極的になってしまったものと考える．

2)授業評価（教授法への)(表 2)

項目 4 の担当教員の意欲については，前期では「意欲的」の割合が多く，後期では「普通」の割合が多かった．

項目 5 の教員の言葉については，前期では「意欲的」の割合が多く，後期では「普通」の割合が多かった．

項目 6 のわかりやすく説明していたかについては，前後では「わかりやすい」がほとんどだったが，後期は前期に比べ「普通」という評価の割合が多かった．

項目 7 の学生の私語や居眠りに対しての対応については，前期では「適切」の割合が多く，後期では「普通」の割合が多かった．

項目 8 の板書，パワーポイント，DVD，プリント等の使用は前期と後期とも概ね「適切」だった．

項目 9 の教科書・参考書については前期と後期ともほぼ「適切」が多かった．

項目 10 のシラバス通りに進められていたかについては，前期では「進められていた」がほとんどだったが，後期では「進められていなかった」の割合が多かった．

項目 11 の学生自身がこの授業を実りあるものに感じたかについては，前期後期とも概ね「実りあるものだった」が多かった．

自由記述欄に記入した学生はいなかった．

2.2 年生対象科目への評価

2) 自己評価(自身の授業への取り組み)(表 3)

項目 1 の出席状況については前後期とも概ね良好だが，1 年生の評価と比べると，「全出席」が少なく，「ほぼ出席」が多くなっている．前期より後期の方が「ほぼ出席」が多い．2 年生になると，前期には編入学試験や就職活動、インターンシップが，後期には，就職活動や自動車学校が入ってくる．そのため 1 年生より欠席が増え，「ほぼ出席」が多かったと考えられる．

項目 2 の予復習は前後期とも「普通」が多かった．

項目 3 の課題への取り組みについては，「普通」が多く，2 の予復習の数値と大きな差は見られなかった．1 年間，レポートや課題，アクティブラーニング等をこなし要領を得たきてきたため，課題を取り組む姿勢に慣れが出てきたものとも考えられる．

4)授業評価(教授法への評価)(表 4)

項目 4 の担当教員の意欲については，前後期とも「意欲的」が多かった．特に果樹各論，作業療法，野菜各論，畜産学Ⅰ，造園施工管理学，園芸実験実習Ⅲ，社会心理学，園芸療法Ⅱ，生花Ⅳ，園芸実験実習Ⅳ，畜産学Ⅱ，造園製図，障害者福祉論，園芸バイオ実習では「意欲的」が多かった．

項目 5 の教員の言葉については前後期とも，「聞き取りやすい」が多かった．作業療法，園芸材料学，樹木学，造園施工管理学，社会心理学，園芸療法Ⅱ，生花Ⅳ，造園維持管理学，造園製図，園芸バイオ実習，障害者福祉論では「聞き取りやすい」が多かった．

項目 6 のわかりやすく説明していたかについては，前後期とも「わかりやすい」がほとんどだった．作業療法，園芸材料学，社会心理学，フラワー演習Ⅱ，造園維持管理学，造園製図では「わかりやすい」が多かった．

項目 7 の学生の私語や居眠りに対しての対応については，前後期とも概ね「適切」が多かった．

項目 8 の板書，パワーポイント，DVD，プリント等の使用は概ね「適切」が多かった．進路支援Ⅱと園芸研究では「適切」と「普通」が同程度だった．理由欄には「授業内容に対して適切だった」「見にくいものがあった」「分かりやすくてよかった」との意見が見られた．

項目 9 の教科書・参考書については概ね「適切」が多かった．理由欄には「わかりやすかった」「分かりにくいものもあった」

項目 10 のシラバス通りに進められていたかについては，前後期とも「進められていた」がほとんどだった．

項目 11 の学生自身がこの授業を実りあるものに感じたかは，概ね「実りあるものだった」が多かった．進路支援Ⅱと園芸研究では「実りあるものだった」と「普通」が同程度だった．理由欄には「興味深い科目だった」「多くのことを知ることができた」「色々な体験ができた」の意見が見られた．

自由記述欄には記入した学生はいなかった．

まとめ

全体を通して，学生による授業評価は概ね良好であった．平成30年度の授業アンケートは全開講科目を一斉に記入するため，記憶が曖昧，科目によっては答えられない項目をよくわからず無理矢理答えてしまっている学生も見られた来年度は各授業の最終コマにアンケートを実施（専任教員分に限り）したため，上記の点について多少は解消していきたい．

また新たに設定した理由欄，自由記述欄を活用している学生が少ないため，来年度はこれらを改善し，さらに精度の高い授業評価アンケートを行い，各科目，各教員へフィードバックしていきたい．

授業評価アンケート（　前期　・　後期　）

大分短期大学園芸科　　自己点検・評価委員会

このアンケートは、授業の内容を充実したものにするために、現状を検討し、授業の改善を図るための大切な資料です。成績評価とは全く関係ありませんので率直に答えてください。

科目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　教員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

				番号記入
自己評価	1	この授業の出席状況はどうでしたか。	1.全出席　2.ときどき休んだ　3.ほぼ休んだ **理由**（　　）	
	2	この授業の予習復習はしましたか。	1. 意欲的　2.普通　3. 消極的 **理由**(　　)	
	3	この授業のレポート・課題提出・発表への取り組みはどうでしたか。	1.意欲的　2.普通　3.消極的 **理由**(　　)	
授業評価(教授法について)	4	担当教員の意欲はどうでしたか。	1.意欲的　2.普通　3.消極的 **理由**(　　)	
	5	担当教員の言葉は明瞭に聞き取れましたか。	1.聞き取りやすい　2.普通　3.聞きにくい	
	6	わかりやすく説明していましたか。	1.わかりやすい　2.普通　3.わかりにくい	
	7	教員は、学生の私語や居眠りに対し適切な指導をしていましたか。	1.適切だった　2.普通　3.適切でなかった	
	8	板書・パワーポイント・DVD・プリントの使用は適切でしたか。	**使用された場合のみ** 1.適切だった　2.普通　3.適切でなかった **理由**(　　)	
	9	教科書・参考書は適切でしたか。	**使用された場合のみ** 1.適切だった　2.普通　3.適切でなかった **理由**(　　)	
	10	シラバス通りに進められていましたか。	1.進められていた　2.進められていなかった	
	11	この授業はあなたにとって実りあるものでしたか。	1.実りあるものだった2.普通3.実りあるものではなかった **理由**(　　)	

＊授業に対する意見や要望、感じたことがあったら書いてください。

表1.自己評価(自身の授業への取り組み)についての評価(1年生対象科目)

		自己点検								
	1年	問1			問2			問3		
	科目	1	2	3	1	2	3	1	2	3
前期科目	農薬学	71	29	0	23	65	10	42	50	4
	森林経営	75	25	0	63	25	13	75	13	13
	園芸学総論	86	14	0	31	57	12	63	35	2
	植物生理生態学	90	10	0	12	73	14	51	45	4
	情報処理	74	26	0	31	64	5	31	62	2
	フラワー演習Ⅰ	90	10	0	30	40	30	80	20	0
	ガーデニング概論	73	27	0	17	56	27	56	40	4
	園芸実験実習Ⅰ	84	14	2	51	43	6	65	33	2
	作物学	91	9	0	28	62	0	66	34	0
	生花Ⅰ	94	6	0	25	63	13	63	38	0
	林産加工	64	36	0	18	68	14	64	36	0
	人ー農業・園芸・関係論	94	4	2	58	38	4	69	31	0
	造園学総論	83	17	0	32	60	9	62	38	0
	英語Ⅰ	84	16	0	46	51	3	54	41	5
	身体スポーツ科学Ⅰ	91	9	0	47	40	12	56	40	2
	造林学	73	24	0	8	65	24	49	46	3
	教養演習Ⅰ	76	24	0	18	76	6	12	82	6
後期科目	生命科学基礎	49	46	0	11	76	8	49	46	0
	土壌肥料学	66	34	0	23	68	9	57	43	0
	進路支援Ⅰ	0	85	15	0	22	65	0	48	50
	教養演習Ⅱ	0	39	61	0	35	58	0	39	58
	農林業土木	86	14	0	31	66	3	62	38	0
	農業経済と経営	0	69	31	0	38	55	0	55	45
	フラワー演習Ⅱ	73	27	0	27	55	18	82	18	0
	施設園芸学	0	67	30	0	35	54	0	63	33
	園芸実験実習Ⅱ	0	73	27	0	42	49	0	71	27
	コミュニケーション論	0	66	34	0	48	41	0	69	31
	農林業機械学	66	34	0	34	61	5	61	39	0
	生花Ⅱ	100	0	0	46	46	8	69	15	0
	測量	0	79	21	0	39	54	0	54	46
	アグリビジネス論	0	44	56	0	37	59	0	63	37
	英語Ⅱ	55	45	0	58	42	0	55	45	0
	身体スポーツ科学Ⅱ	0	88	12	0	41	50	0	56	35
	園芸福祉論	67	33	0	42	50	8	58	42	0
	花卉装飾学演習	64	36	0	45	45	9	55	45	0
	管理実習Ⅱ	94	6	0	38	56	6	69	31	0
	特別講義Ⅰ	0	88	12	0	42	47	0	60	40
	造園演習	75	25	0	38	63	0	38	63	0

表2.授業評価(教授法)についての評価(1年生対象科目)

		授業評価(教授法について)																							
	1年	問4			問5			問6			問7			問8			問9			問10		問11		
	科目	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	1	2	3
前期科目	農薬学	65	35	0	40	56	4	35	65	0	35	65	0	63	33	0	46	27	0	98	2	69	31	0
	森林経営	100	0	0	88	13	0	88	13	0	75	25	0	100	0	0	100	0	0	100	0	75	25	0
	園芸学総論	69	31	0	65	33	2	47	49	4	59	41	0	65	27	4	39	16	2	96	2	65	33	0
	植物生理生態学	65	35	0	55	45	0	27	59	14	51	47	0	37	53	10	33	47	0	90	8	53	41	6
	情報処理	50	48	2	60	38	2	48	45	7	48	52	0	43	31	0	19	31	0	98	2	69	29	2
	フラワー演習Ⅰ	90	10	0	70	30	0	80	20	0	60	40	0	50	10	0	50	0	0	80	20	80	20	0
	ガーデニング概論	63	37	0	65	33	0	65	35	0	29	65	6	73	27	0	17	33	4	94	6	75	25	0
	園芸実験実習Ⅰ	75	25	0	67	31	2	65	35	0	71	29	0	55	16	2	39	8	4	96	2	94	6	0
	作物学	64	36	0	43	51	6	38	57	4	70	28	2	53	34	6	66	28	0	96	4	70	30	0
	生花Ⅰ	81	19	0	88	13	0	75	25	0	63	38	0	50	25	0	56	31	0	94	6	81	19	0
	林産加工	64	36	0	68	32	0	68	27	5	64	36	0	77	18	5	82	18	0	100	0	86	14	0
	人ー農業・園芸・関係論	73	27	0	75	25	0	79	21	0	58	42	0	58	31	0	38	17	0	96	2	81	19	0
	造園学総論	72	28	0	66	30	4	70	28	2	60	40	0	77	21	2	72	23	0	98	2	77	23	0
	英語Ⅰ	73	27	0	62	35	3	62	35	3	59	41	0	62	35	0	78	22	0	97	3	76	24	0
	身体スポーツ科学Ⅰ	70	30	0	72	26	2	70	30	0	56	44	0	30	12	2	30	9	2	98	2	79	19	2
	造林学	65	32	0	62	32	3	65	27	5	54	43	0	70	24	3	65	30	0	92	5	92	32	0
	教養演習Ⅰ	82	18	0	76	12	12	65	24	12	59	41	0	47	35	0	35	18	0	94	6	59	41	0
後期科目	生命科学基礎	49	46	0	35	57	3	19	57	19	49	51	0	38	54	0	41	35	0	84	8	49	43	3
	土壌肥料学	81	19	0	81	17	2	72	28	0	55	45	0	81	19	0	74	23	0	96	2	96	4	0
	進路支援Ⅰ	0	61	39	0	61	39	0	61	39	0	52	48	0	61	24	0	48	20	0	89	0	72	28
	教養演習Ⅱ	0	68	32	0	61	39	0	55	42	0	48	52	0	71	26	0	55	23	0	87	0	77	19
	農林業土木	69	31	0	66	34	0	79	21	0	66	34	0	72	24	0	69	28	0	93	3	90	10	0
	農業経済と経営	0	55	45	0	69	31	0	52	38	0	59	41	0	69	28	0	69	28	0	97	0	62	38
	フラワー演習Ⅱ	73	27	0	64	36	0	82	18	0	82	18	0	64	18	0	55	18	0	82	18	91	9	0
	施設園芸学	0	80	20	0	80	20	0	80	20	0	57	43	0	76	22	0	52	17	0	98	0	87	13
	園芸実験実習Ⅱ	0	80	18	0	76	22	0	69	29	0	76	22	0	51	22	0	44	16	0	89	0	89	11
	コミュニケーション論	0	86	14	0	90	10	0	86	14	0	72	28	0	72	24	0	59	24	0	97	0	86	10
	農林業機械学	63	37	0	63	34	3	58	37	5	58	42	0	76	21	0	79	18	0	95	3	79	21	0
	生花Ⅱ	92	8	0	85	15	0	77	23	0	54	46	0	46	23	0	77	15	0	92	8	92	8	0
	測量	0	61	39	0	71	21	0	61	25	0	64	36	0	71	21	0	71	11	0	96	0	86	14
	アグリビジネス論	0	85	15	0	59	37	0	63	33	0	63	37	0	59	33	0	67	22	0	89	0	74	19
	英語Ⅱ	64	36	0	64	36	0	52	48	0	58	42	0	64	33	0	76	21	0	91	6	82	18	0
	身体スポーツ科学Ⅱ	0	74	26	0	76	21	0	76	21	0	76	21	0	53	9	0	53	9	0	85	0	94	6
	園芸福祉論	67	33	0	33	42	25	67	33	0	50	50	0	83	8	0	58	8	0	100	0	75	25	0
	花卉装飾学演習	91	9	0	91	9	0	82	18	0	82	18	0	64	9	0	64	9	0	91	9	82	18	0
	管理実習Ⅱ	81	19	0	94	6	0	94	6	0	69	31	0	75	13	0	44	19	0	94	0	100	0	0
	特別講義Ⅰ	0	70	28	0	74	26	0	74	26	0	58	37	0	77	16	0	51	12	0	88	0	84	16
	造園演習	88	13	0	88	13	0	88	13	0	75	25	0	75	25	0	63	25	0	88	13	88	13	0

表3.自己評価(自身の授業への取り組み)についての評価(2年生対象科目)

		自己評価								
	2年	問1			問2			問3		
	科目	1	2	3	1	2	3	1	2	3
前期科目	統計学	53	47	0	38	63	0	47	50	3
	介護理論	56	44	0	0	89	11	13	88	0
	果樹各論	64	36	0	14	82	5	32	68	0
	理学療法	81	19	0	10	86	0	24	76	0
	作業療法	60	40	0	10	85	5	40	60	0
	ガーデンデザイン演習Ⅰ	54	46	0	23	69	0	38	62	0
	野菜各論	71	29	0	78	18	11	57	43	0
	フラワー演習Ⅱ	40	60	0	0	80	20	25	75	0
	造園施工管理学	55	45	0	18	64	18	18	82	0
	園芸実験実習Ⅲ	53	47	0	22	78	0	53	43	4
	英会話1	59	41	0	53	47	0	52	48	0
	園芸材料学	50	50	0	10	90	0	60	40	0
	生花Ⅲ	75	25	0	33	58	8	58	33	8
	美術・文化論	65	35	0	19	63	19	18	79	3
	樹木学	47	53	0	45	50	5	47	53	0
	畜産学Ⅰ	55	45	0	30	70	0	50	50	0
	老人福祉論	80	20	0	38	38	25	38	50	13
	花卉装飾学	78	22	0	11	89	0	44	56	0
	園芸療法Ⅰ	33	67	0	28	67	6	72	28	0
	教養演習Ⅲ	27	73	0	27	62	12	36	64	0
後期科目	植物病理学	23	74	3	17	66	17	26	62	12
	応用昆虫学	33	67	0	25	71	4	30	65	4
	進路支援Ⅱ	57	43	0	44	36	21	41	50	9
	園芸研究	62	38	0	51	44	4	57	41	2
	社会心理学	37	60	3	43	49	9	60	40	0
	ガーデンデザイン演習Ⅱ	40	50	10	60	30	10	40	40	20
	フラワー演習Ⅳ	67	0	33	50	0	50	67	33	0
	園芸療法Ⅱ	53	47	0	42	47	11	68	32	0
	園芸工学実験実習	53	47	0	56	42	2	69	31	0
	環境保全学	15	80	5	40	55	5	65	25	10
	育種遺伝学	82	18	0	55	36	9	73	18	9
	英会話Ⅱ	48	52	0	63	33	4	63	37	0
	生花Ⅳ	40	60	0	75	25	0	50	50	0
	飼料作物学	73	27	0	55	36	9	73	27	0
	造園維持管理学	45	55	0	55	27	18	73	27	0
	畜産学Ⅱ	60	40	0	60	40	0	80	20	0
	樹木医学	40	60	0	5	65	30	40	55	5
	造園製図	75	25	0	38	38	25	100	0	0
	障害者福祉論	36	55	9	33	67	0	30	60	10
	花卉各論	29	57	14	29	71	0	43	43	14
	園芸バイオ実習	91	9	0	82	18	0	80	20	0
	特別講義Ⅱ	68	30	2	37	46	17	62	34	4

表4.授業評価(教授法)についての評価(2年生対象科目)

		授業評価(教授法について)																						
	2年	問4			問5			問6			問7			問8			問9			問10		問11		
	科目	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	1	2	3
前期科目	統計学	66	34	0	63	38	0	53	44	3	66	34	0	78	22	0	79	21	0	100	0	28	4	0
	介護理論	56	44	0	89	11	0	89	11	0	33	67	0	67	33	0	43	57	0	100	0	100	0	0
	果樹各論	86	14	0	59	41	0	73	27	0	14	86	0	86	14	0	27	73	0	82	18	77	23	0
	理学療法	71	29	0	81	19	0	90	10	0	57	43	0	90	10	0	33	67	0	100	0	95	5	0
	作業療法	90	10	0	95	5	0	95	5	0	35	65	0	95	5	0	71	29	0	95	5	95	5	0
	ガーデンデザイン演習Ⅰ	31	69	0	85	15	0	85	15	0	64	54	0	80	20	0	78	22	0	100	0	85	15	0
	野菜各論	82	18	0	86	14	0	79	21	0	61	39	0	86	14	0	82	18	0	89	11	93	7	0
	フラワー演習Ⅱ	80	20	0	40	60	0	60	40	0	100	0	0	33	67	0	50	0	50	100	0	100	0	0
	造園施工管理学	82	18	0	91	9	0	91	9	0	45	55	0	73	27	0	67	33	0	91	9	82	18	0
	園芸実験実習Ⅲ	87	13	0	79	21	0	76	24	0	68	32	0	79	21	0	72	28	0	100	0	91	9	0
	英会話1	78	22	0	78	22	0	72	28	0	59	41	0	84	16	0	81	19	0	97	3	94	6	0
	園芸材料学	70	30	0	100	0	0	100	0	0	50	50	0	100	0	0	60	40	0	90	0	100	0	0
	生花Ⅲ	83	17	0	75	25	0	75	25	0	58	42	0	83	17	0	92	8	0	100	0	92	8	0
	美術・文化論	59	38	3	59	35	6	38	50	12	47	50	3	88	16	3	82	18	0	94	6	65	29	6
	樹木学	88	13	0	91	9	0	91	9	0	78	22	0	78	22	0	84	16	0	100	0	94	6	0
	畜産学Ⅰ	91	9	0	64	36	0	55	45	0	45	55	0	60	40	0	70	30	0	100	0	91	9	0
	老人福祉論	75	25	0	75	13	13	75	13	13	75	25	0	75	13	13	71	14	14	100	0	75	25	0
	花卉装飾学	44	56	0	22	78	0	44	56	0	22	78	0	78	22	0	78	22	0	89	11	78	22	0
	園芸療法Ⅰ	67	33	0	33	50	17	67	47	7	33	50	17	78	22	0	80	20	0	100	0	72	28	0
	教養演習Ⅲ	54	46	0	73	27	0	58	42	0	38	62	0	71	29	0	50	50	0	92	8	73	27	0
後期科目	植物病理学	29	69	3	49	49	3	54	43	3	31	66	3	77	23	0	56	44	0	94	6	86	14	0
	応用昆虫学	71	29	0	58	42	0	67	33	0	44	52	4	67	33	0	61	39	0	92	8	88	13	0
	進路支援Ⅱ	68	32	0	77	23	0	79	21	0	62	38	0	67	31	2	59	41	0	100	0	85	13	2
	園芸研究	68	32	0	72	26	2	70	30	0	61	39	0	48	53	0	63	38	0	89	11	87	11	2
	社会心理学	89	11	0	94	6	0	94	6	0	74	26	0	94	6	0	95	5	0	97	3	97	3	0
	ガーデンデザイン演習Ⅱ	50	50	0	80	20	0	70	20	10	60	40	0	71	14	14	80	0	20	100	0	100	0	0
	フラワー演習Ⅳ	67	33	0	67	33	0	100	0	0	100	0	0	100	0	0	0	100	0	67	33	100	0	0
	園芸療法Ⅱ	100	0	0	100	0	0	90	5	5	74	26	0	94	6	0	100	0	0	100	0	100	0	0
	園芸工学実験実習Ⅳ	89	11	0	85	15	0	85	15	0	67	33	0	74	26	0	70	30	0	96	4	96	4	0
	環境保全学	75	25	0	75	25	0	70	20	10	55	45	0	76	19	5	80	15	5	80	20	85	5	10
	育種遺伝学	64	36	0	64	36	0	64	36	0	55	45	0	64	36	0	56	44	0	100	0	82	18	0
	英会話Ⅱ	74	26	0	74	26	0	63	37	0	56	41	4	70	30	0	81	19	0	96	4	89	11	0
	生花Ⅳ	100	0	0	100	0	0	80	20	0	60	40	0	100	0	0	80	20	0	80	20	100	0	0
	飼料作物学	73	27	0	55	45	0	64	36	0	45	55	0	73	27	0	80	20	0	100	0	91	9	0
	造園維持管理学	82	18	0	100	0	0	100	0	0	55	45	0	100	0	0	100	0	0	100	0	100	0	0
	畜産学Ⅱ	100	0	0	60	40	0	60	40	0	60	40	0	60	40	0	80	20	0	100	0	100	0	0
	樹木医学	80	20	0	65	35	0	70	30	0	30	70	0	75	25	0	50	50	0	85	15	75	25	0
	造園製図	100	0	0	100	0	0	100	0	0	75	25	0	100	0	0	100	0	0	100	0	100	0	0
	障害者福祉論	91	0	9	90	10	0	90	10	0	60	40	0	89	11	0	90	10	0	100	0	100	0	0
	花卉各論	57	43	0	71	29	0	71	29	0	57	43	0	86	14	0	33	67	0	100	0	100	0	0
	園芸バイオ実習	100	0	0	100	0	0	91	9	0	75	25	0	80	20	0	78	22	0	100	0	100	0	0
	特別講義Ⅱ	77	19	4	72	26	2	77	21	2	55	38	6	83	15	2	72	25	3	94	6	85	9	6

平成 30 年度 大分短期大学生の学修・生活実態

小石　鉄兵

（大分短期大学　園芸科　自己点検・評価委員会）

Learning and living conditions of student
in OITA JUNIOR COLLEGE in Fiscal 2017

Teppei KOISHI
(The Board of Self-Inspection / Assessment, OITA JUNIOR COLLEGE)

要　約

本調査は，短期大学学生に対し学修面および生活面における実態を把握することを目的に実施している．これにより短大生活における各学年の指導の質を向上させることにつなげていくものとする．

予習・復習については，1・2 年生ともに予習よりも復習に取り組む学生の割合が大きいが，半数以上の学生は予習を行っていない現状にある.2 年生においては特に取り組む状況が悪かった.理由としては『めんどくさい』,『やる気が出ない』などの理由がある中,『予習で何をどこまですればいいのか分からない』,『やり方が分からない』,『他にやらないといけない課題が多い』等，教員サイドにおいて改善を図る必要のある意見も聞かれた.短期大学教育の満足度については,昨年度の結果と同様に概ね満足していると回答した学生が多く，その内容として教職員の良い対応などが挙げられた．

「短期大学士力」については，学生個々人の傾向として 1 年生よりも 2 年生の方が“応用的”かつ“専門性”について，より修得した結果を得た．

学生生活では，アルバイトに取り組む 2 年生の割合が，昨年度と比較し減少し，そのことで学習面や生活面での時間を確保しやすくなったように窺えた.アルバイトの目的では「生活費」，「小遣い」，「学費」が主であった．睡眠時間については，2 年生が 1 年生に比べて睡眠時間が確保されやすい状況にあった.朝食摂取については，例年同様に「毎日食べていない」学生の割合が，2 年生になると増加する傾向にあった．

キーワード：学修，短期大学士力，生活実態

緒　言

平成 24 年 8 月，文部科学省中央教育審議会から「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ～」が答申された．大分短期大学では，平成 21 年度から「人－農業・園芸・環境関係論」において，学生主体型の授業（アクティブラーニング）を取り入れたことをきっかけとして [1),2)]，他授業への導入も展開している．平成 28 年度一般財団法人短期大学基準協会による機関別評価において『本学のすべての専任教員は，担当科目にアクティブラーニング（学生主体型授業）を 2 コマ程度導入し，全学的な教育の質転換を図っている』は特に優れた試みとして評価された [3)]．この他にも小規模大学ならではの個別性ゼミナール制により学生個々人に合わせた指導にも力を入れている．

本報告では，これらの取り組みが学生へどのように影響しているかを把握するため学習および学生生活に関するアンケート調査を行った結果について報告する．

調査方法

1. 学修に関するアンケート調査

平成 30 年 9 月 18 日にアンケート調査を実施した。大分短期大学に在学する 1 年生(51 名), 2 年生(49 名)全員を調査対象とした. 質問は表 1,2(別添資料)に示す 21 項目であった. 1･2 年生に同じ質問をし, 回答は選択式とした. なおアンケートはH29年度調査時の書式と同じであった.

2. 学生生活に関するアンケート調査

学修に関するアンケートと同日の平成 30 年 9 月 18 日にアンケート調査を実施した. 調査は大分短期大学に在学する 1 年生(51 名), 2 年生(49 名)全員を対象とした. 質問は表 2 に示す 6 項目とした. 学年に関わらず, 1･2 年生には同じ質問をし, 回答は選択式とした. なおアンケートは H29 年度調査時の書式と同じであった.

結 果

1. アンケートの回答率

「学修に関するアンケート調査」と「学生生活に関するアンケート調査」に対し 1 年生 51 名, 2 年生 49 名から回答を得た. 回答率は1･2年生共に100%であった.

2. 学修に関するアンケート

(1)「普段の予習、復習は主にどこで行っていますか？」に対する回答

平成 29 年度調査結果と同様, 1･2 年生ともに「自分の部屋」が最も多く, 次いで「短大の図書館や自習室」であった. 「自分の部屋」と「短大の図書室や自習室」を合わせると1年生90%, 2年生94%であった.2 年生で「自分の部屋」と回答した割合は,1 年生よりも 13%多かった. 2 年生で「短大の図書室や自習室」と回答した割合は 1 年生よりも 9%低かった(図 1-1,図 1-2).

2年生は1年次に比べて「自分の部屋」が2%減少し, 「短大の図書室や自習室」は変化なかった.

図 1-1 普段の予習, 復習は主にどこで行っていますか？(1 年生)

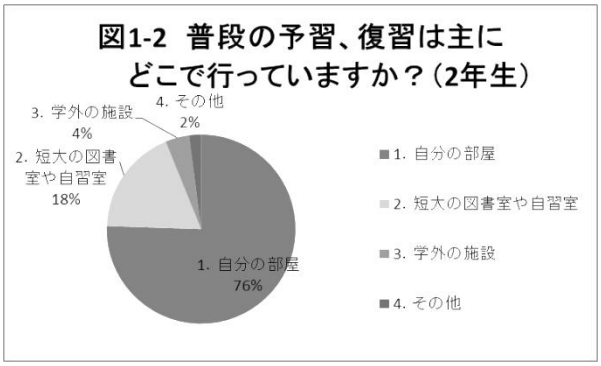


図 1-2 普段の予習, 復習は主にどこで行っていますか？(2 年生)

(2)「普段、授業の予習をしていますか？」に対する回答

「毎回している」と回答したものは 1 年生 6%, 2 年生 2%であった. 「ときどきしている」と回答したものは,1 年生55%, 2年生57%であった. 「あまりしていない」と「まったくしていない」を合わせると 1 年生 39%, 2 年生 41%であった(図 2-1,2-2).

2 年生の 1 年次との比較では「毎回している」が 2%減少し, 「ときどきしている」が 17%増加した.

○予習について (記述内容のみ記載)

1 年生

- ･予習で何をどこまですればいいのか分からない
- ･やり方が分からない
- ･その他(めんどくさい,忙しい,やる気が出ない 等)

2 年生

- ･やる気が出ない
- ･英語以外はしない
- ･必要性を感じない,重要性を感じない
- ･他にやらないといけない課題が多い
- ･なんとなく
- ･教科書通り進まないことがあるから

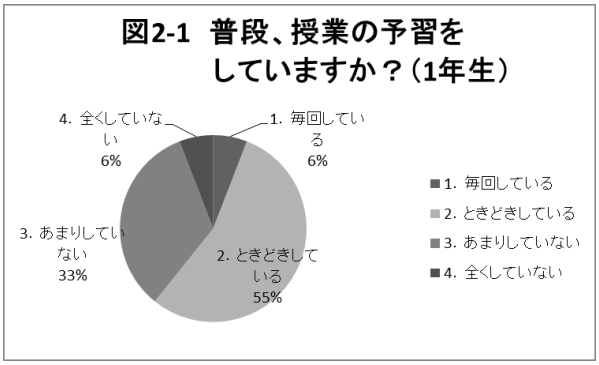


図 2-1 普段、授業の予習をしていますか？ (1 年生)

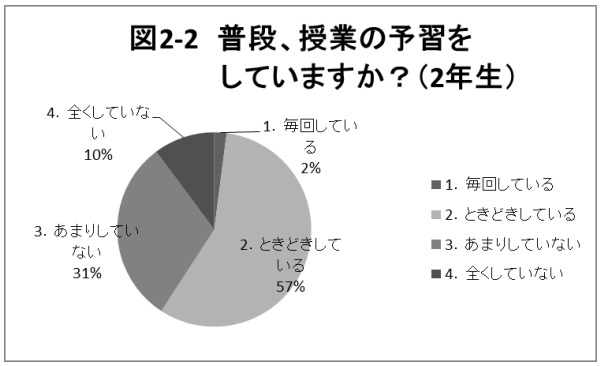


図 2-2　普段、授業の予習をしていますか？（2 年生）

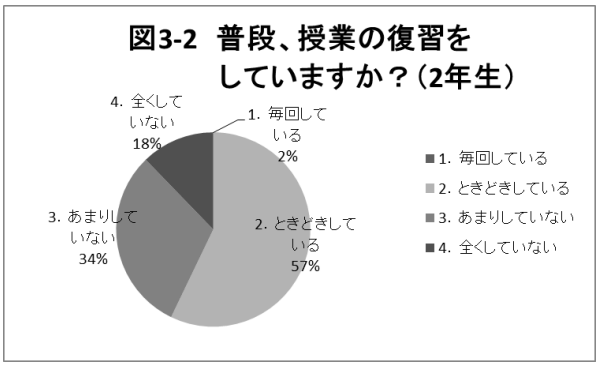


図 3-2　普段、授業の復習をしていますか？（2 年生）

(3)「普段,授業の復習をしていますか？」に対する回答

「毎回している」と回答したものは 1 年生 4%, 2 年生 2%と極めて少なかった.「ときどきしている」と回答したものは, 1 年生 63%, 2 年生 57%であった.「あまりしていない」と回答したものは, 1 年生 25%, 2 年生 34%であった.「まったくしていない」と回答したものは 1 年生 8%, 2 年生 18%であった(図 3-1,3-2).

2 年生の 1 年次との比較では「毎回している」は変化はみられなかった.「ときどきしている」の割合が 3%減少した.「あまりしていない」と「まったくしていない」の割合が 12%増加した.

○復習について（記述内容のみ記載）

1 年生

・復習の仕方が分からない
・何をしたらいいのか分からない
・テスト前に確認すればなんとかなる
・やる気が出ない
・その他
（重要性が分からない,課題でおわれてる　等）

2 年生

・なんとなく
・必要性を感じない
・疲れている
・テスト前か必要になる時以外は復習してない

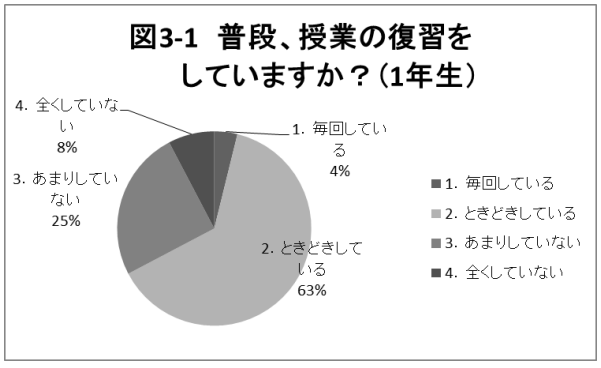


図 3-1　普段、授業の復習をしていますか？（1 年生）

(4)「予習と復習を合わせた平日の勉強時間は？」に対する回答

1 年生で最も多かったのは「1～2 時間」で 43%であった. 次いで「1 時間以下」で 29%であった. 2 年生で最も多かったのは「1～2 時間」で 41%であった. 次いで「1 時間以下」で 31%であった.「まったくしていない」の回答においては, 1 年生 12%, 2 年生 13%であった(図 4-1,4-2).

2 年生の 1 年次との比較では,「3～4 時間」で 2%増加した.「1 時間以下」と「まったくしていない」の割合は変化がみられなかった.

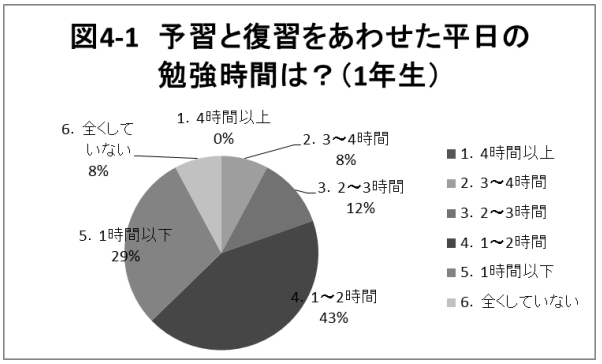


図 4-1　予習と復習を合わせた平日の勉強時間は？（1 年生）

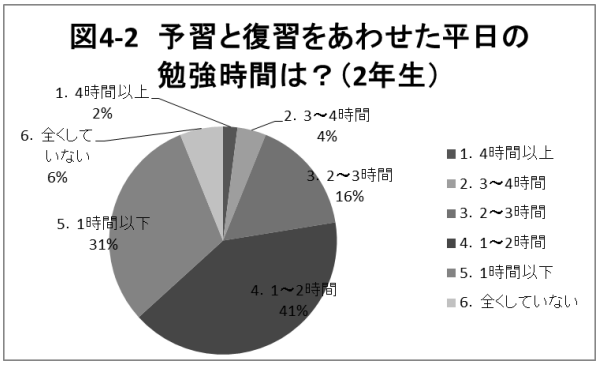


図 4-2　予習と復習を合わせた平日の勉強時間は？（2 年生）

(5)「予習と復習を合わせた休日の勉強時間は？」に対する回答

1･2 年生ともに最も多かったのは「1～2 時間」で 1 年生 35%, 2 年生 39%であった. 次いで「1 時間以下」で 1 年生は 21%, 2 年生 23%であった. 1 年生における「まったくしていない」の割合は 12%であった.「4 時間以上」では 1･2 年生ともに 2%であった(図 5-1,5-2).

2 年生の 1 年次との比較では,「4 時間以上」が 6%増加,「2～3 時間」で 12%減少,「1～2 時間」で 9%増加した.

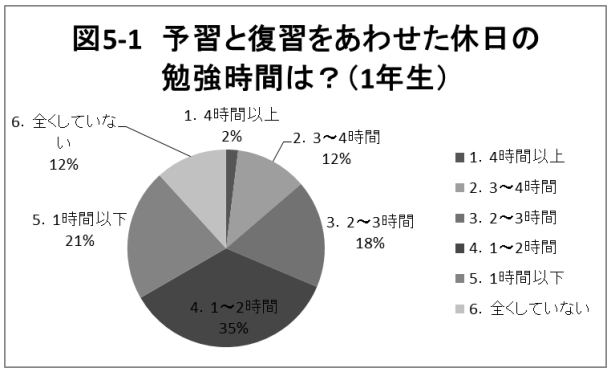


図 5-1　予習と復習を合わせた休日の勉強時間は？(1 年生)

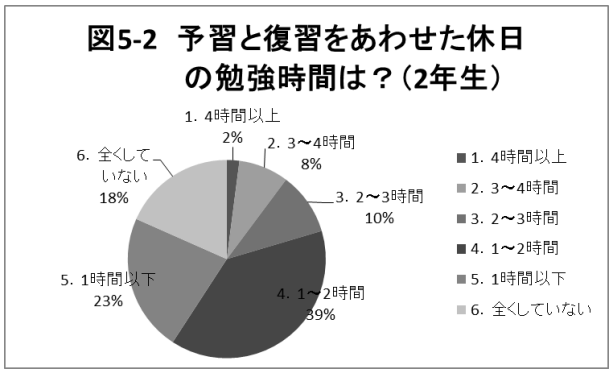


図 5-2　予習と復習を合わせた休日の勉強時間は？(2 年生)

(6)「レポート課題などの調べものをするときの情報源は？」に対する回答

1,2 年生ともに最も多かったのは「インターネット」であった(1 年生:62%, 2 年生:64%). 次いで「教科書や参考書」であった(1 年生:31%, 2 年生:32%). また「友人や先輩」および「教員」と回答したものが 1 年生 7%, 2 年生で 3%であった(図 6-1,6-2 参照).

2 年生の 1 年次との比較では「教科書や参考書」との回答が 12%増加した.「友人や先輩」との回答が 2%増加した.

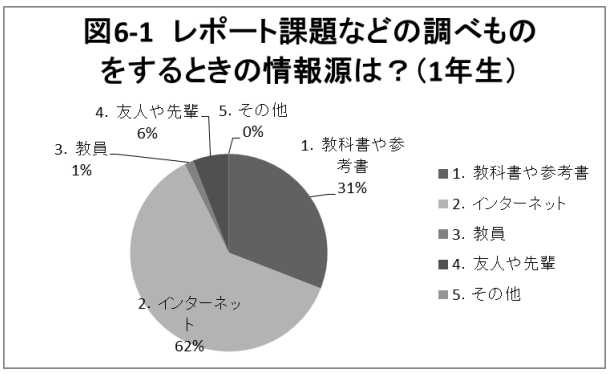


図 6-1 レポート課題などの調べものをするときの情報源は？ (1 年生)

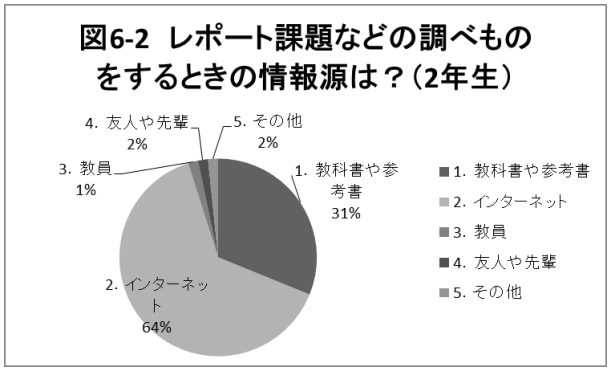


図 6-2 レポート課題などの調べものをするときの情報源は？ (2 年生)

(7)「学習のためにインターネットを 1 日何時間くらい利用しますか？」に対する回答

学習に利用する 1 日のインターネットの利用時間は,「2 時間以上」との回答が 1 年生 12%, 2 年生 14%であった.「1～2 時間」との回答が 1 年生 31%, 2 年生 31%であった.「1 時間以内」との回答が 1 年生 51%, 2 年生 45%であった.「まったく利用しない」との回答が 1 年生 6%, 2 年生 11%であった(図 7-1, 7-2).

2 年生の 1 年次との比較では,「2 時間以上」が 4%増加,「1 時間以内」が 5%減少,「まったく利用しない」が 3%減少した.

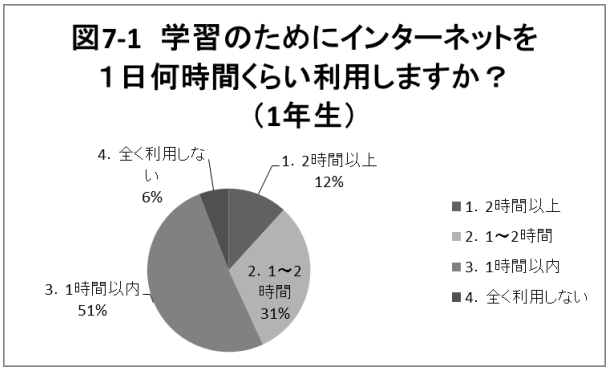


図 7-1 学習のためにインターネットを 1 日何時間くらい利用しますか？ (1 年生)

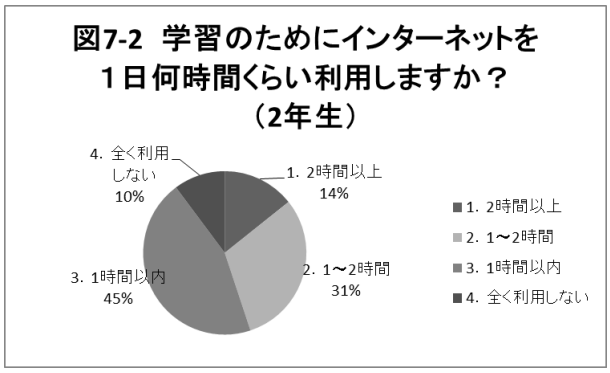


図 7-2 学習のためにインターネットを 1 日何時間くらい利用しますか？（2 年生）

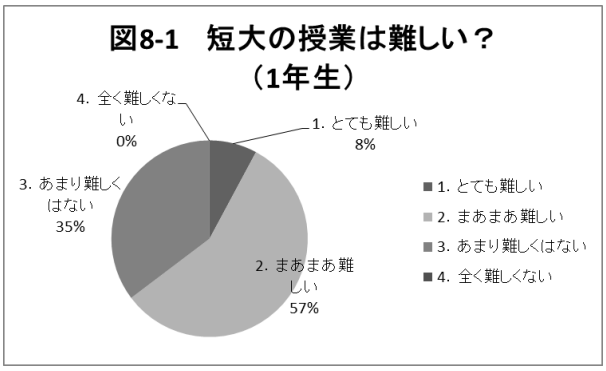


図 8-1 短大の授業は難しい？（1 年生）

(8)「短大の授業は難しい？」に対する回答

「まあまあ難しい」との回答で 1 年生 57%，2 年生 33%であった．次いで多かったのは「あまり難しくない」との回答で 1 年生 35%，2 年生 62%であった．また「とても難しい」との回答が 1 年生で 8%，2 年生で 2%であった(図 8-1, 8-2)．2 年生の 1 年次との比較では，「とても難しい」は 2%減少，「まあまあ難しい」が 5%減少，「あまり難しくはない」が 6%増加，「まったく難しくない」が 2%増加した．

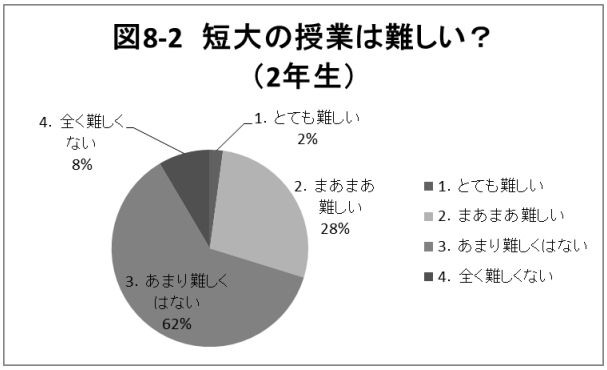


図 8-2 短大の授業は難しい？（2 年生）

○授業について（記述内容のみ記載）

短大の授業で難しいと感じている科目

1 年生

- 林業（林業関係の科目）
- 英語,生物
- 農薬学
- 作物学
- 植物生理生態学
- 造林,林産加工
- 情報処理
- 造林学

2 年生

- 樹木関係の科目
- 農薬学,情報処理
- 英語
- 施工管理学
- 統計学
- 美術文化論

(9)「夏休み中の編入/公務員講座に参加しましたか？」に対する回答

「すべて参加した」との回答は，1 年生 2%，2 年生 4%であった．「ほぼ参加した」との回答は，1 年生 31%，2 年生 2%であった．「まあまあ参加した」との回答は 1 年生 27%，2 年生 7%であった．「ほとんど参加しなかった」との回答は，1 年生 4%，2 年生 14%であった．「全く参加しなかった」との回答では，1 年生 12%，2 年生 18%であった．「参加する予定はなかった」との回答では，1 年生 24%，2 年生 59%を占めていた(図 9-1, 9-2)．

2 年生の 1 年次との比較では，「すべて参加した」が 8%減少，「ほぼ参加した」が 20%減少，「まあまあ参加した」は 17%減少，「ほとんど参加しなかった」は 4%増加，「全く参加しなかった」は 12%増加，「参加する予定はなかった」は 33%増加した．

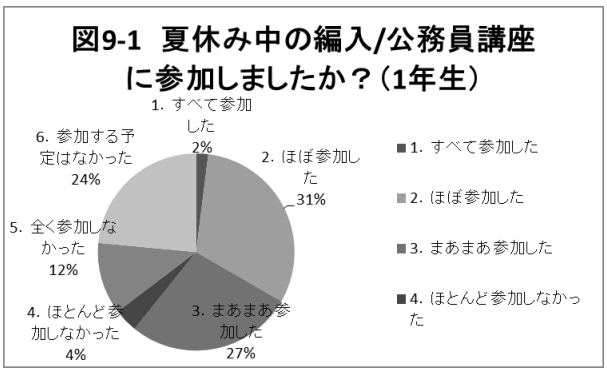


図 9-1 夏休み中の編入/公務員講座に参加しましたか？（1 年生）

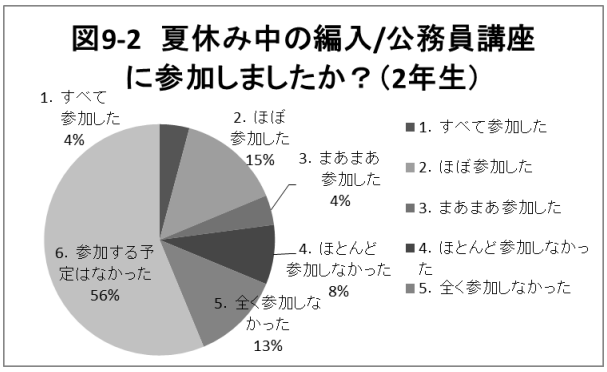


図 9-2 夏休み中の編入/公務員講座に参加しましたか？（1 年生）

(10)「夏休み中の編入/公務員講座以外の自主学習について…1 日あたりの学習時間は？（資格取得のための勉強時間を除く）」に対する回答

「4 時間以上」との回答は,1･2 年生ともに 2%であった.「3～4 時間」との回答が 1 年生 6%, 2 年生 12%であった.「2～3 時間」との回答は,1 年生 12%, 2 年生17%であった.「1～2 時間」との回答は 1 年生 40%, 2 年生 19%であった.「全くしていない」との回答は 1 年生 12%, 2 年生 18%であった(図 10-1, 10-2).

2 年生の 1 年次との比較では,「4 時間以上」の回答が 10%減少,「3～4 時間」で変化なし,「2～3 時間」が 5%増加,「1～2 時間」で 9%減少,「1 時間以下」では 11%増加,「全くしていない」で 2%減少した.

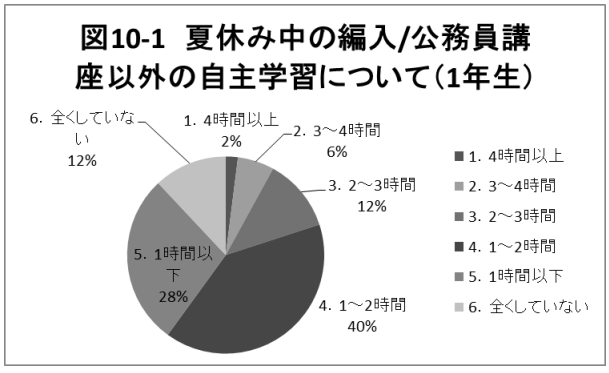


図 10-1 夏休み中の編入/公務員講座以外の自主学習について（1 年生）

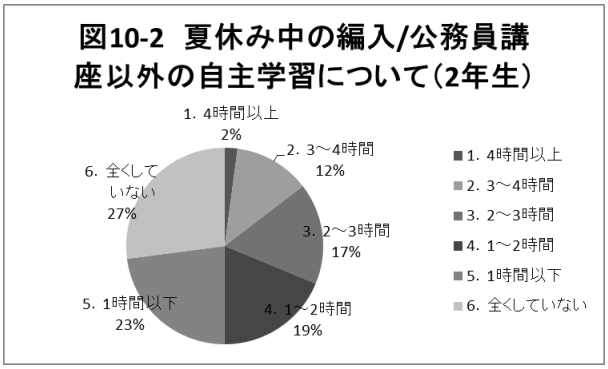


図 10-2 夏休み中の編入/公務員講座以外の自主学習について（2 年生）

(11)「大分短大の教育全体の満足度は？」に対する回答

「大変満足」との回答では, 1 年生 22%, 2 年生 27%であった.「まあまあ満足」との回答は, 1 年生 72%, 2 年生 61%であった.「あまり満足してない」との回答は, 1 年生 4%, 2 年生 7%であった.「全く満足してない」と回答するものは 1･2 年生ともにいなかった.「どちらでもない」との回答は, 1 年生 2%, 2 年生 5%であった(図 11-1, 11-2).

2 年生の 1 年次との比較では,「大変満足」で 9%増加,「まあまあ満足」で 3%増加,「あまり満足していない」で 5%減少した.

○大分短大の満足度について（記述内容のみ記載）

1 年生

（大変満足、まあまあ満足している）

- 農業関連の内容
- 編入科目に関わりがないものがあるから
- 先生たちがとても熱心です
- 先生が良い人
- 授業や行事
- 授業が分かりやすい
- 実習
- 授業だけでなく,資格もとれるから
- テストが良い感じ
- 資格の補習などを無料でやってくれる
- 分からないところまでしっかりと教えてくれた
- 自分の知らない内容を知ることができ,もっと知識を深めたい

1 年生

（あまり・全く満足していない，どちらでもない）

- 種目が一部の意見で決められているため,毎回バスケだったこと

2 年生

（大変満足，まあまあ満足している）

- 園芸全般について学べるところ
- 知識を深めることができるから

・勉強する時間がたくさんある
・資格について
・授業がおもしろい
・先生の小話がおもしろい
・楽しい、充実している
・内容の理解度
・実習で知識が定着する
・ゼミ研に関して相談にのってくれる点
・手厚い
・日々楽しく学校生活を送れているから
・実習などのフィールドワークが好きだから

2年生

（あまり・全く満足していない，どちらでもない）

※2 年生からの具体的コメントはなかった

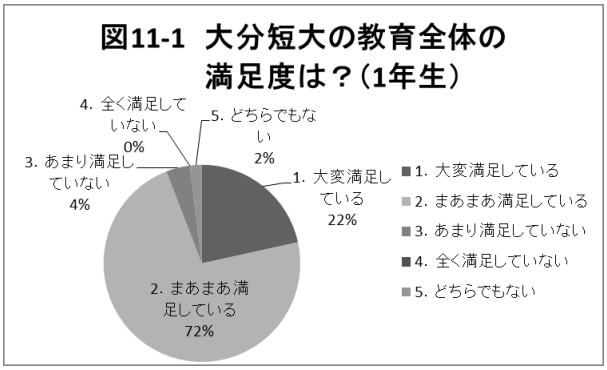


図 11-1　大分短大の教育全体の満足度は？（1 年生）

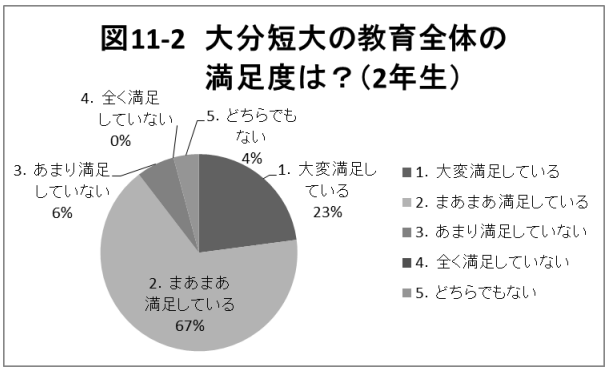


図 11-2　大分短大の教育全体の満足度は？（2 年生）

(12)短期大学士力の「一般教養知識」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1 年生 6%，2 年生 9%であった.「まあまあ修得」との回答は，1 年生 60%，2 年生 82%であった.「あまり修得してない」との回答では，1 年生 28%，2 年生 9%であった.「まったく修得してない」との回答では，1 年生 6%，2 年生はいなかった(図 12-1,12-2).

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」で 5%減少，「まあまあ修得」で 18%であった.「あまり修得してない」で 5%減少，「全く修得していない」で 4%減少した.

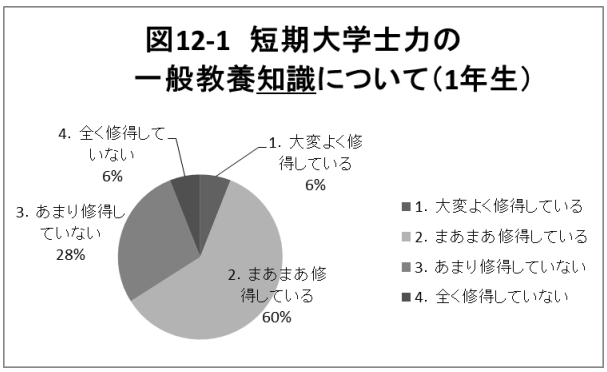


図 12-1　短期大学士力の一般教養知識について（1 年生）

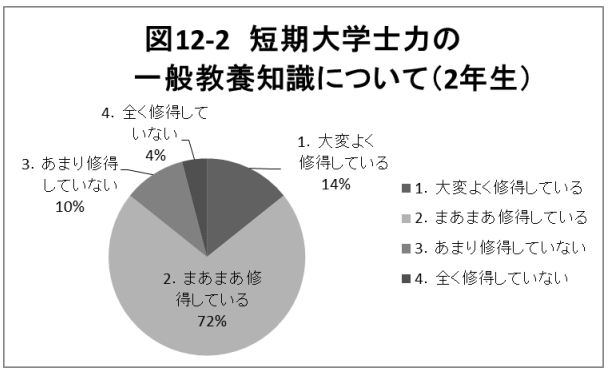


図 12-2　短期大学士力の一般教養知識について（2 年生）

(13)短期大学士力の「一般教養技能」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1 年生 8%，2 年生 9%であった.「まあまあ修得」との回答は，1 年生 58%，2 年生 70%であった.「あまり修得してない」との回答では，1 年生 30%，2 年生 21%であった.「まったく修得してない」との回答では，1 年生 4%，2 年生はいなかった(図 13-1,13-2).

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」で 1%減少，「まあまあ修得」で 8%増加，「あまり修得していない」で 3%減少，「全く修得していない」が 2%減少した.

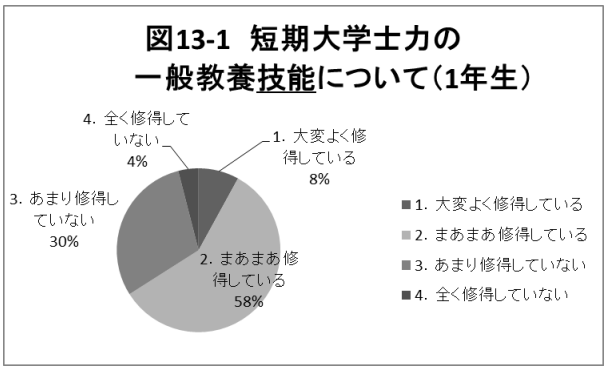


図 13-1　短期大学士力の一般教養技能について（1 年生）

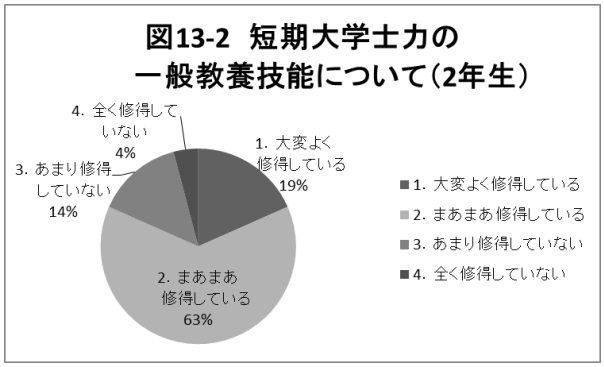


図 13-2　短期大学士力の一般教養技能について (2 年生)

(14) 短期大学士力の「基礎的専門知識」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1 年生 8%，2 年生 9%であった.「まあまあ修得」との回答は，1 年生 64%，2 年生 77%であった.「あまり修得してない」との回答では，1 年生 22%，2 年生 12%であった.「まったく修得してない」との回答では，1 年生 6%，2 年生 2%であった(図 14-1,14-2).

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」で 1%減少，「まあまあ修得」は変化なし，「あまり修得していない」で 12%減少，「全く修得していない」は変化がみられなかった.

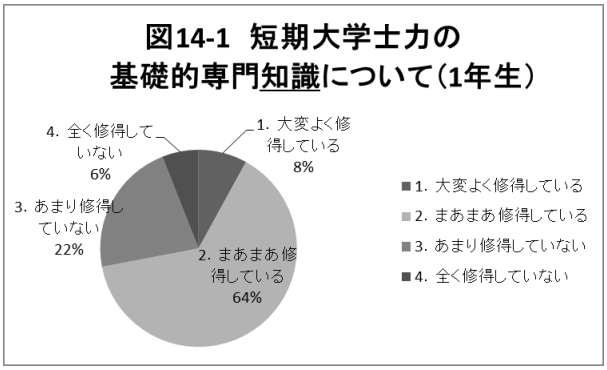


図 14-1　短期大学士力の基礎的専門知識について (1 年生)

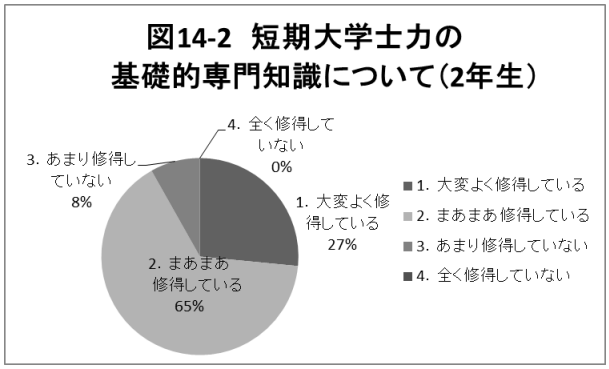


図 14-2　短期大学士力の基礎的専門知識について (2 年生)

(15) 短期大学士力の「基礎的専門技能」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1 年生 8%，2 年生 9%であった.「まあまあ修得」との回答は，1 年生 68%，2 年生 73%であった.「あまり修得してない」との回答では，1 年生 16%，2 年生 18%であった.「まったく修得してない」との回答では，1 年生 6%，2 年生はいなかった(図 15-1,15-2).

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」で 1%減少，「まあまあ修得」は 11%増加，「あまり修得していない」は 6%減少，「全く修得していない」は 2%減少し，回答したものもいなかった.

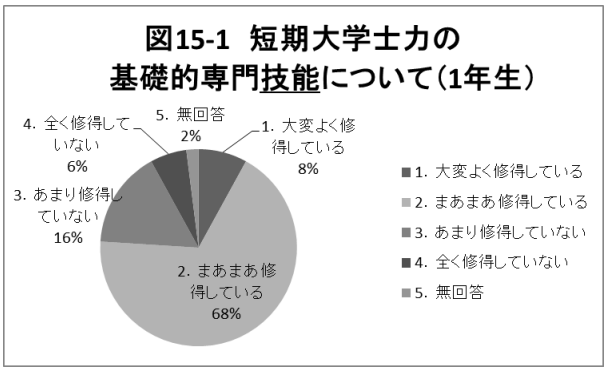


図 15-1　短期大学士力の基礎的専門技能について (1 年生)

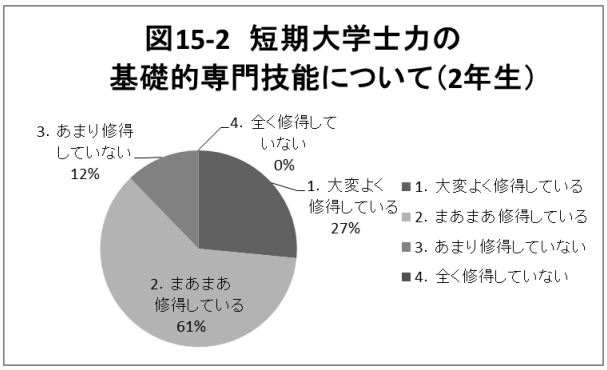


図 15-2　短期大学士力の基礎的専門技能について (2 年生)

(16) 短期大学士力について「応用的専門知識」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1 年生 4%，2 年生 9%であった.「まあまあ修得」との回答は，1 年生 35%，2 年生 66%であった.「あまり修得してない」との回答では，1 年生 53%，2 年生 23%であった.「まったく修得してない」との回答では，1 年生で 8%，2 年生で 2%であった(図 16-1,16-2).

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」で 1%減少，「まあまあ修得」は 4%増加，「あまり修得していない」は 1%減少，「全く修得していない」では変化がみられなかった.

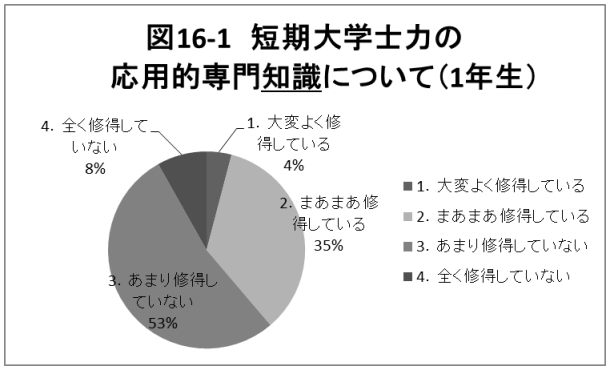


図 16-1　短期大学士力の応用的専門知識について (1 年生)

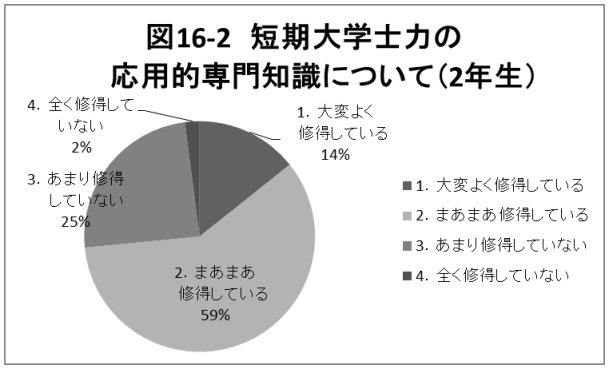


図 16-2　短期大学士力の応用的専門知識について (2 年生)

(17) 短期大学士力の「応用的専門技能」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1 年生 4%，2 年生 10%であった．「まあまあ修得」との回答は，1 年生 32%，2 年生 65%であった．「あまり修得してない」との回答では，1 年生 56%，2 年生 23%であった．「まったく修得してない」との回答では，1 年生 8%，2 年生 2%であった(図 17-1,17-2)．

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」は変化なし，「まあまあ修得」は 3%増加，「あまり修得していない」は1%減少，「全く修得していない」では変化がみられなかった．

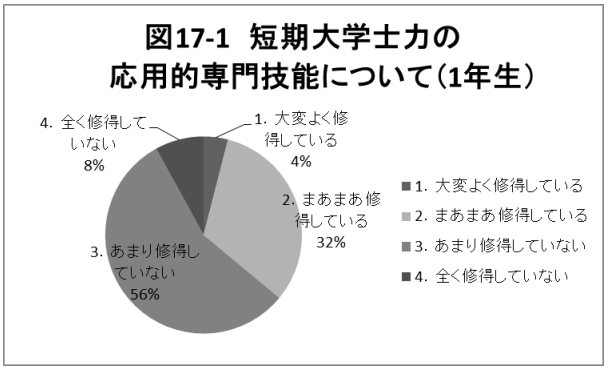


図 17-1　短期大学士力の応用的専門技能について (1 年生)

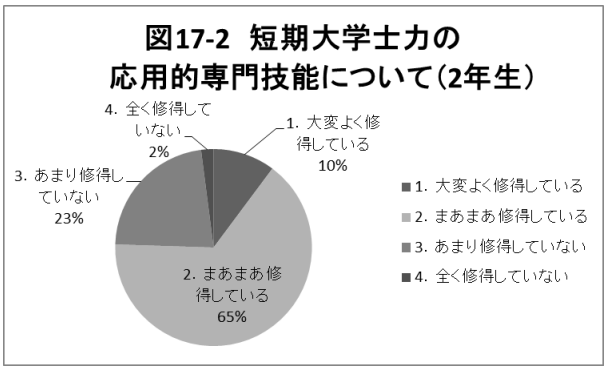


図 17-2　短期大学士力の応用的専門技能について (2 年生)

(18) 短期大学士力の「社会的基礎知識」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1 年生 8%，2 年生 16%であった．「まあまあ修得」との回答は，1 年生 62%，2 年生 70%であった．「あまり修得してない」との回答では，1 年生 26%，2 年生 12%であった．「まったく修得してない」との回答では，1 年生 4%，2 年生 2%であった(図 18-1,18-2)．

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」で 6%増加，「まあまあ修得」は 8%増加，「あまり修得していない」は変化なし，「全く修得していない」では変化はみられなかった．

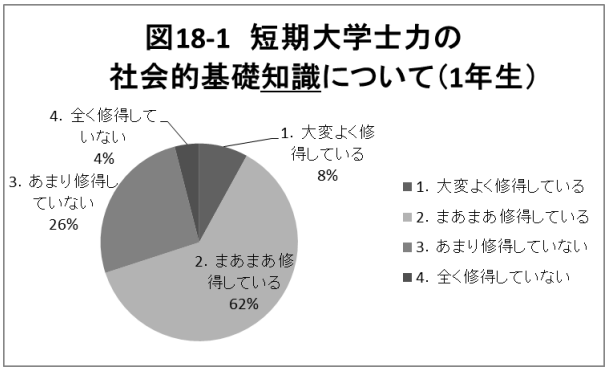


図 18-1　短期大学士力の社会的基礎知識について (1 年生)

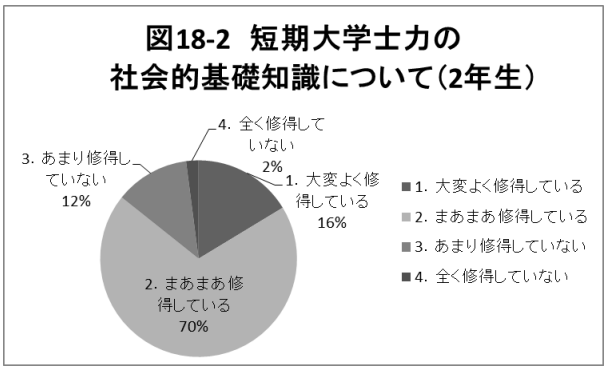


図 18-2　短期大学士力の社会的基礎知識について (2 年生)

(19)短期大学士力の「多様性・協働性」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1年生16%，2年生7%であった.「まあまあ修得」との回答は，1年生54%，2年生80%であった.「あまり修得してない」との回答では，1年生28%，2年生11%であった.「まったく修得してない」との回答では，1・2 年生ともに 2%であった(図19-1,19-2).

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」で 3%減少，「まあまあ修得」は18%増加，「あまり修得していない」は 13%減少，「全く修得していない」では変化はみられなかった.

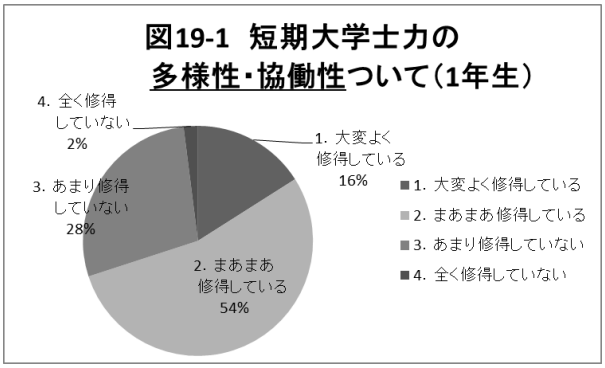


図 19-1　短期大学士力の多様性・協働性について (1 年生)

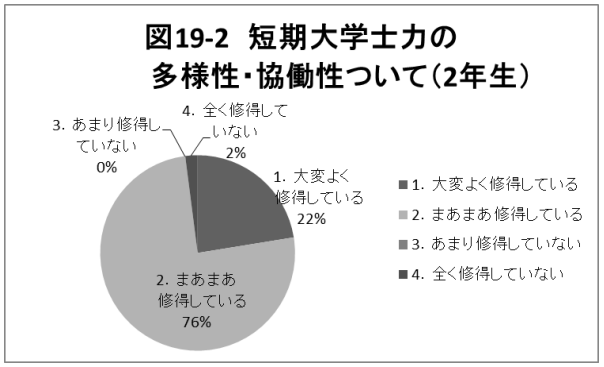


図 19-2　短期大学士力の多様性・協働性について (2 年生)

(20)短期大学士力の「主体性・思考力・判断力」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1 年生 10%，2 年生 7%であった.「まあまあ修得」との回答は，1 年生 54%，2 年生 75%であった.「あまり修得してない」との回答では，1年生30%，2年生16%であった.「まったく修得してない」との回答では，1 年生 6%，2 年生 2%であった(図20-1,20-2).

2 年生の 1 年次との比較では，「大変よく修得」で 3%減少，「まあまあ修得」は13%増加，「あまり修得していない」は 8%減少，「全く修得していない」では変化はみられなかった.

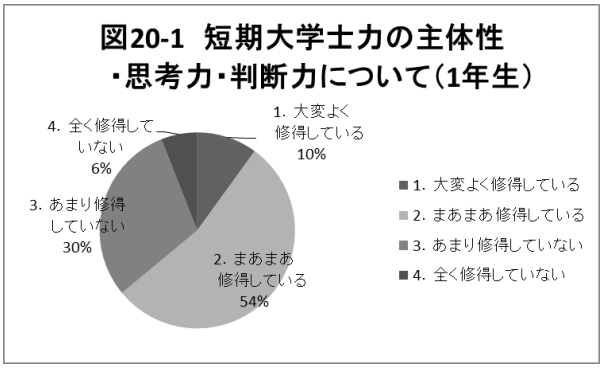


図 20-1　短期大学士力の主体性・思考力・判断力について (1 年生)

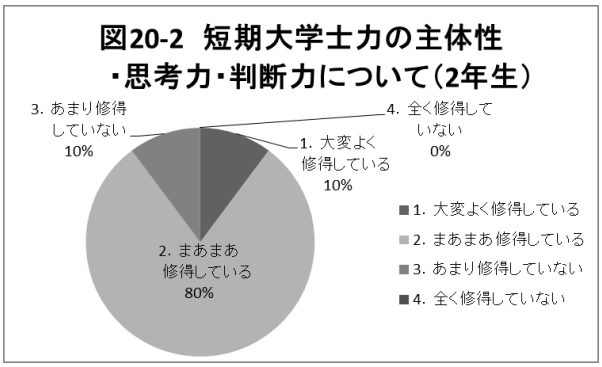


図 20-2　短期大学士力の主体性・思考力・判断力について (2 年生)

(21)短期大学士力の「表現力」に対する回答

「大変よく修得」との回答では，1年生10%，2年生7%であった.「まあまあ修得」との回答は，1 年生 54%，2 年生 75%であった.「あまり修得してない」との回答では，1年生30%，2年生16%であった.「まったく修得してない」との回答では，1 年生 6%，2 年生 2%であった(図21-1,21-2).

2年生の1年次との比較では，「大変よく修得」で3%減少，「まあまあ修得」は 8%増加，「あまり修得してない」は8%減少，「全く修得してない」は5%増加した.

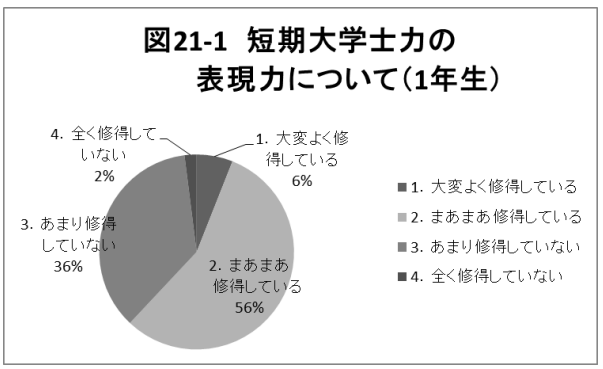


図 21-1　短期大学士力の表現力について (1 年生)

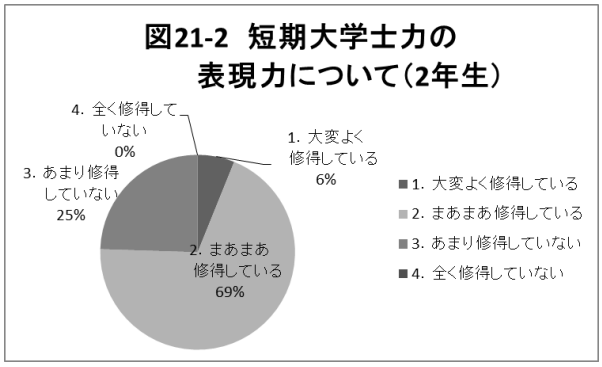


図 21-2　短期大学士力の表現力について（2 年生）

(22)「平日のアルバイトの状況は？」に対する回答

「毎日」と回答したのは，1･2 年生ともにいなかった．「3～4 日」との回答は 1 年生で 18%，2 年生で 36%であった．「1～2 日」との回答は 1 年生で 26%，2 年生で 4%であった．「アルバイトはしてない」との回答は，1 年生 56%，2 年生は 60%であった(図 22-1，22-2)．

2 年生の 1 年次との比較では，「毎日」との回答が 10%減少し回答したものはいなかった．「3～4 日」が 26%減少，「1～2 日」が 20%減少していた．

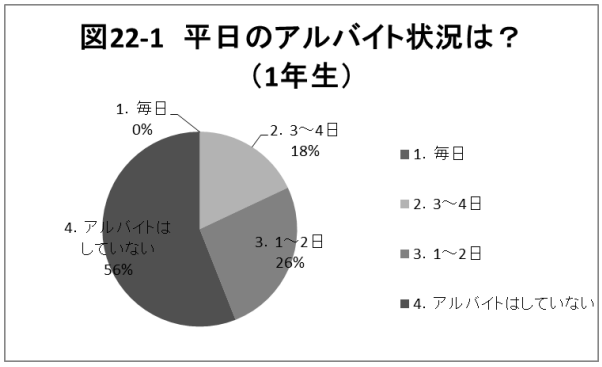


図 22-1　平日のアルバイト状況は？（1 年生）

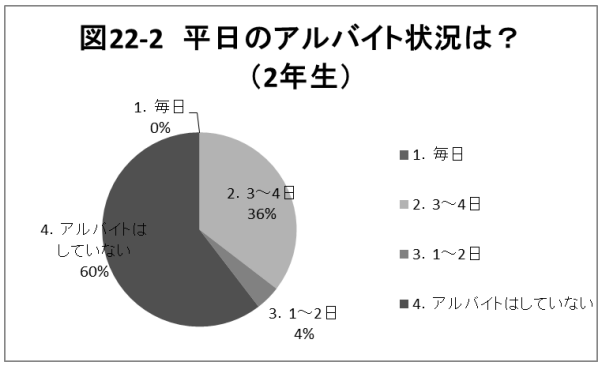


図 22-2　平日のアルバイト状況は？（2 年生）

(23)「土/日のアルバイトの状況は？」に対する回答

「毎週している」との回答は，1 年生 20%，2 年生 16%であった．「時々している」との回答は，1 年生で 21%，2 年生で 9%であった．「してない」との回答は 1 年生 49%，2 年生 53%であった(図 23-1，23-2)．

2 年生の 1 年次との比較では，「毎週している」が 12%増加，「時々している」が 3%減少，「してない」が 31%増加した．

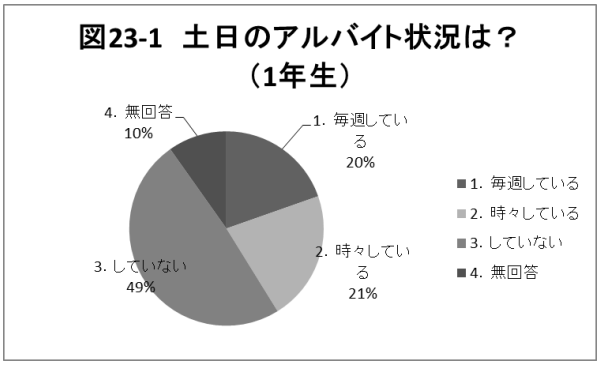


図 23-1 土日のアルバイト状況は？（1 年生）

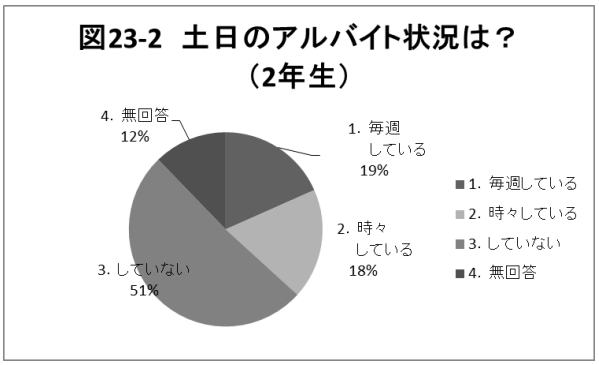


図 23-2 土日のアルバイト状況は？（2 年生）

(24)「アルバイトの目的」に対する回答

「学費」との回答は，1 年生 17%，2 年生 14%であった．「生活費」との回答は，1 年生 22%，2 年生 40%であった．「小遣い」との回答は 1･2 年生ともに 30%であった．「社会勉強」との回答は 1 年生 14%，2 年生 13%であった(図 24-1，24-2)．

2 年生の 1 年次との比較では，「学費」が 12%増加，「生活費」が 30%増加，「小遣い」が 16%増加した．

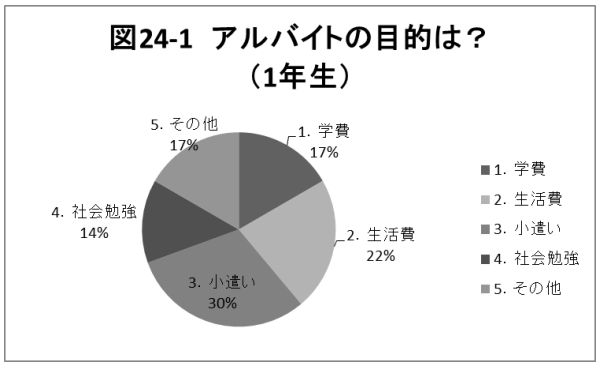


図 24-1 アルバイトの目的は？（1 年生）

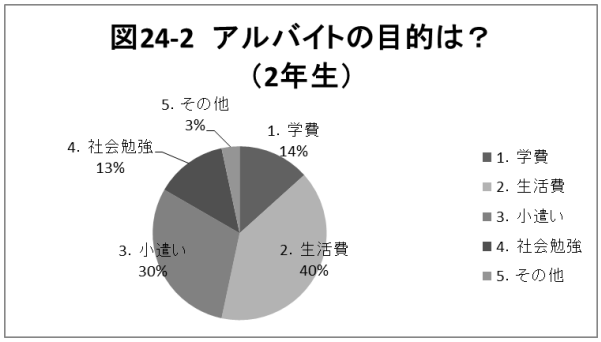


図 24-2 アルバイトの目的は？（2 年生）

(25)「平日の睡眠時間は？」に対する回答

「5 時間以下」との回答は，1 年生で 17%，2 年生で 10%であった.「5～6 時間」との回答は，1 年生 17%，2 年生 25%であった.「6～7 時間」との回答は，1 年生 48%，2 年生 47%であった.「7～8 時間」との回答は 1 年生 14%，2 年生 18%であった.「8 時間以上」との回答は，1 年生で 4%，2 年生で回答した者はいなかった（図 25-1，25-2）.

2 年生の 1 年次との比較では，「5 時間以下」は 2%増加，「5～6 時間」は 5%減少，「6～7 時間」は 7%減少，「7～8 時間」は 10%増加，「8 時間以上」は 1･2 年生ともにみられなかった.

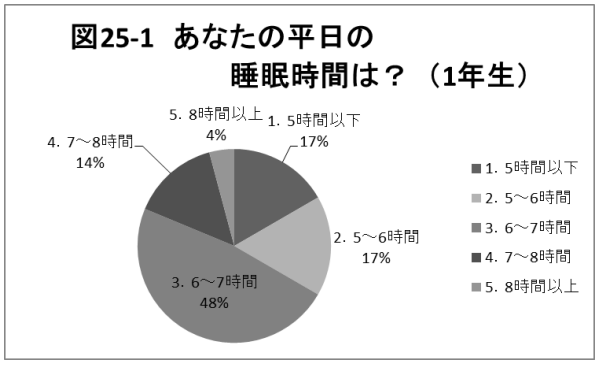


図 25-1 あなたの平日の睡眠時間は？（1 年生）

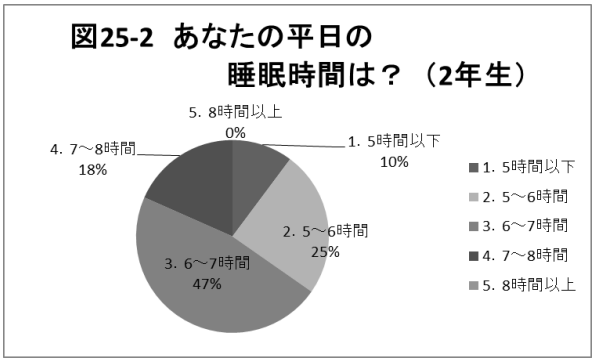


図 25-2 あなたの平日の睡眠時間は？（2 年生）

(26)「朝食は食べていますか？」に対する回答

「毎日食べている」との回答が，1 年生 55%，2 年生 68%であった.「時々食べている」との回答は，1 年生で 29%，2 年生で 14%であった.「ほとんど食べない」との回答は 1 年生で 12%，2 年生で 16%であった.「全く食べない」との回答は，1 年生 4%，2 年生 2%であった（図 26-1，26-2）. 2 年生の 1 年次との比較では「毎日食べている」が 4%減少，「時々食べている」は 6%減少，「ほとんど食べない」が 10%増加，「全く食べない」は変化がみられなかった.

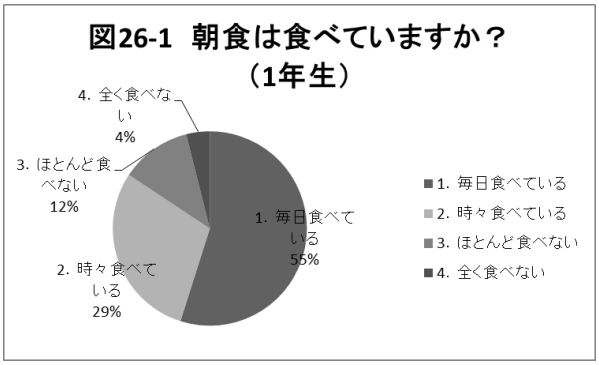


図 26-1 朝食は食べていますか？（1 年生）

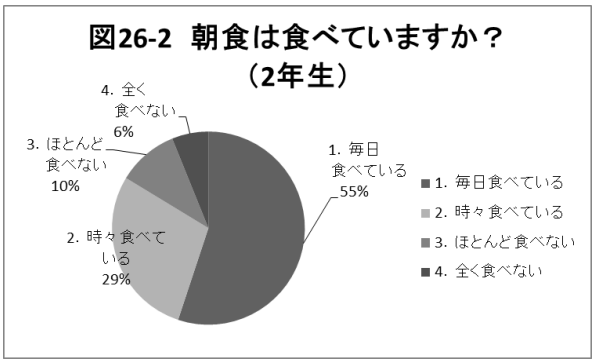


図 26-2 朝食は食べていますか？（2 年生）

(27)「学校生活以外のプライベートは満足していますか？」に対する回答

「とても満足している」との回答は 1 年生で 34%，2 年生で 30%であった.「まあまあ満足している」との回答は 1 年生で 64%，2 年生で 59%であった.「あまり満足していない」は 1 年生 2%，2 年生 9%であった.「満足していない」との回答は 1･2 年生ともにいなかった（図 27-1，27-2）.

2 年生の 1 年次との比較では，「とても満足している」が 4%増加，「まあまあ満足している」が 11%減少，「あまり満足していない」が 5%増加，「全く満足していない」は変化がみられなかった.

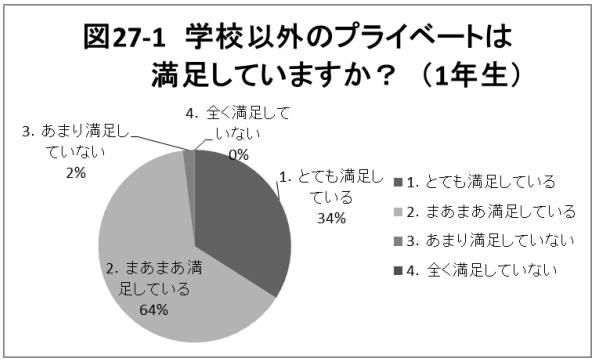


図 27-1 学校以外のプライベートは満足していますか？（1 年生）

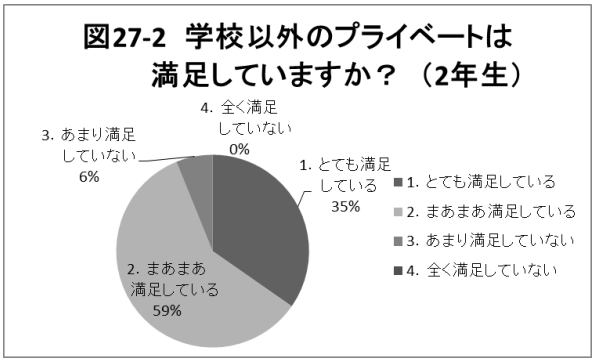


図 27-2 学校以外のプライベートは満足していますか？（2 年生）

考 察

1. 授業の予習と復習の状況について

今年度の調査から予習ならびに復習について,『毎回している』と回答した学生は 1 年生 6%, 2 年生 2%と極めて少ない状況にあった.『時々している』学生は 1･2 年生ともに 5 割を超えていたものの, 1･2 年生ともに約半数の学生が予習を行っていない現状が明らかになった. 取り組まない理由として,『めんどくさい』,『なんとなく』,『やる気が出ない』等が挙げられ, 高等教育である短期大学においては論外であると考える. その他の『予習で何をどこまですればいいのか分からない』,『やり方が分からない』,『他にやらないといけない課題が多い』,『教科書通り進まないことがあるから』との回答には, 各科目担当教員に学生からの意見をフィードバックし、具体的な提示がなされるよう促しを図り改善を目指したい.

学習場所については、昨年度と同様に 1･2 年生ともに「自分の部屋」,「短大の図書館や自習室」が大半を占めていた. なお, ラーニングコモンズの活用状況（表 3, 別添資料）より, 学生らがグループで行う「人−農業･園芸･環境関係論」や「卒業研究」等の発表準備,また自主的な学習時間等による使用頻度が増加してきている印象を受けた. 今後は教員からの指示ではなく, 学生主体によるディスカッションの場としての使用をより推進していく必要があると考える.

学習における情報源については, 例年と同様 1･2 年生ともに大半の学生がインターネットから情報を得ていることが分かった. インターネットによる情報のみではなく, 書籍や新聞など情報収集における手段を増やしていく指導が必要であると考える.

情報源については, 2 年生の 1 年次との比較からすると「教科書や参考書」からが 12%,「友人と先輩」からが 2%増加しており, 良い傾向にあると考えられる.

2. 公務員/編入講座について

昨年度から“対策講座”を“教養演習”の名称で科目を単位化したことにより, 出席率は格段に増加している状況にある. しかし昨年同様, 進路決定後に出席率が下がる傾向はみられた. 2 年生においては編入学希望から進路変更をし, 就職希望になった学生の参加率が低くなる傾向にあることも印象的であった. 編入学や公務員への合格は, ゴールではないこと,また生涯学習の要素とその必要性について,日頃から促していく必要があると考える.

3. 夏季休暇中の学習について

昨年度と比べ, 公務員／編入講座以外の学習時間において 2 年生は「4 時間以上」自主学習に取り組む学生の割合は 10%の減少がみられた. 内容としては昨年と変わらず“資格の取得”や“編入学試験”への対策が主であった. 夏季休暇中の編入／公務員講座への参加は,1 年生 58%, 2 年生 19%と大きな差が, 昨年同様にみられた. 特に 2 年生においては, 編入学試験やより高度な資格取得に向け, 具体的な学習に取り組んでいたと推察され, 講座への参加が少なかったと考える.

一方, 就職を希望する学生に対する夏休みの過ごし方については, 統一されておらず指導は各ゼミナール教員に一任されている. 夏季講座の中には, 就職した後, 社会人として必要となるスキルを養成する内容も開講されている. 各教員からの促しを強化し, 編入学希望学生以外に対する支援対策の見直しを検討する必要がある.

4. 大分短期大学に対する満足度について

昨年度の調査結果と同様に, 概ね満足している と考えられる. 理由として,「先生たちがとても熱心」,「先生が良い人」,「分からないところまでしっかりと教えてくれた」,「ゼミ研に関して相談にのってくれる点」,「手

厚い」等，教職員の対応がプラス面として挙げられた．

一方，「まったく満足していない」との回答はなかったが，「あまり満足していない」と回答した学生から挙がった理由として「種目が一部の意見で決められているため，毎回、種目が一緒だったこと」が挙げられていた．今回の結果を受けて，少人数ゼミナール制による手厚いサポートが可能であるという点は，当短期大学における強みであると考えられる．マイナス要素の点は，非常勤講師による科目内容であり，今後調整を図る必要があると考える．

5. 短期大学士力について

学士力の修得率は，平均で 1 年生 62.1%，2 年生 81%であり，2 年生の方が「修得している」と認識する学生の割合が高かった．2 年生は学士力に応じて，個人的な数値の変動がみられていたが，1 年生は一定の回答が目立った．それぞれの学士力について，2 年次のカリキュラムにおける専門性の高さから，各個人の意識が高まった結果，数値の変動が生じたものと考える。

ただし，2 年生における 1 年次との比較では，数%程度の変化であり大きな変動はなかった。このことから学年ごとの自己評価基準においては，単年での比較による考察は難しいと考えられるため，今後データを蓄積した上で考察していく必要がある．

学生らにおける学士力の捉え方として，昨年と同様に“技能”と“知識”において，知識の方が比較的数値が高く，『知識を基礎，技能を応用』として捉えている学生が多いのではないかと考える．“基礎”と“応用”という言葉のイメージによって安易に捉えてしまう学生がいると思われる。これは教員側も意識して，“基礎”と“応用”の概念を伝えていくことで、学生らの自己評価も変化する可能性があるものと考える。

今後の課題として 1 年生に対しては，高校までとは違う高等教育についての認識を促し，基礎的スキルの強化を図る必要があると考える．2 年生においては，応用的スキルとして，社会から求められる大きな要素となる表現力（コミュニケーション力）の重要性について，理解とその修得につなげられるように細かな指導が必要と考えられる．

6. 学生生活について

アルバイトをしている学生は，1 年生で 44%，2 年生で 40%の割合であった。近年，経済的理由から奨学金の申請者が多いことに鑑みると，学生らが置かれている経済的状況は厳しいことが推察される。しかし、2 年生が 1 年次に行っていたアルバイトの頻度と比較すると、約 20%の学生がアルバイトをしなくなった現状があった。編入学に向けた学習や就職活動、その他資格取得に力を入れるなど、学業に専念したものと推察される．

1 年生は，以前の学生と比較すると，アルバイトに取り組む学生が少なく，本調査を開始した平成 26 年度以降，一番低い割合となった．入学者全体に対する編入学希望者の割合が高かったことから，進学が叶うまでは学業に専念する者が多かったと推察される．今後も学生生活を注意深く観察し，状況次第では，教員の指導や援助を適切に行う必要があると考える．

アルバイトをする目的については，1，2 年生ともに「生活費および小遣い」，「学費」，「社会勉強」の順に推移しており，個々人の事情に基づいて取り組む状況であった．2 年生の 1 年次との比較では「生活費」で 30%増加，「小遣い」で 16%増加，「学費」で 12%増加していた.例年同様に経済状況上の理由が多いと考えられる．今後もデータを蓄積しながら傾向を探る必要がある．また奨学金を受給している学生も多い状況にあることから，引き続き，適宜個別対応ができる体制づくりを推奨する必要があると考える．

睡眠時間に関しては，例年，1 年生より 2 年生の方が睡眠時間を確保しにくいという状況にあった.1 年生の方が「5 時間以下」の睡眠しかとれていない割合が7%も多かった.「5 時間以上」の睡眠が確保されている割合においても，1 年生 79%，2 年生 90%と 2 年生の方が睡眠時間は確保されていた.これは学業以外の時間を制約するアルバイトへの取り組み状況が影響していると考える.上述したように 2 年生のアルバイトへの取り組みは 40%と例年に比べると少ないと言える．夜間帯に取り組むことが多いアルバイトが睡眠時間に影響を与えていると推察する．

朝食を摂れているかについては，例年同様に 2 年次になると，「毎日食べている」の割合が減少している．

睡眠不足や朝食不摂取については，学修面以外の生活面でも大きな悪影響を与える可能性があることから，引き続き，サポートを行うことが重要と考える．

引用文献

1）摺崎　宏（自己点検・評価委員会）
（2016）平成 27 年度　大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告

2）小石鉄兵（自己点検・評価委員会）
（2017）平成 28 年度　大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告

3）小石鉄兵（自己点検・評価委員会）
（2018）平成 29 年度 大分短期大学生の学習・生活実態調査結果報告
4）奥綾香ら（2017）プレゼンテーションとグループワークを組み合わせたアクティブラーニングの事例研究
5）平成 28 年度 第三者評価の機関別評価

表３　　学修に対する質問項目

別添資料１

大分短期大学生の学習、学生生活に関するアンケート　H30年度

H30.9.18実施

学年（　　）

（調査の目的）

大分短期大学生の学習意識や学習に関する実態、生活実態を把握し、今後の教育改革ならびに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的とする

質問に対する回答番号を右側に書いて下さい。

○学習についての質問

・普段の予習、復習は主にどこで行っていますか？　〔　　〕

1. 自分の部屋
2. 短大の図書室や自習室
3. 学外の施設
4. その他（　　）

・普段、授業の予習をしていますか？　〔　　〕

1. 毎回している
2. ときどきしている
3. あまりしていない
4. 全くしていない

※1，2と回答した方　予習の内容は主に次のうちのどれに当てはまりますか？丸で囲んでください。

a.授業の課題（アクティブラーニング含む）　b.次回授業の予習　c.その他（　　）

※3、4と回答した方　予習に取り組まない理由はなんですか？また、どうすれば予習が出来ると思いますか？

・普段、授業の復習をしていますか？　〔　　〕

1. 毎回している
2. ときどきしている
3. あまりしていない
4. 全くしていない

※1，2と回答した方　復習の内容は主に次のうちのどれに当てはまりますか？丸で囲んでください。

a.授業の課題（アクティブラーニング含む）　b.次回授業の予習　c.その他（　　）

※3、4と回答した方　復習に取り組まない理由はなんですか？また、どうすれば復習が出来ると思いますか？

・予習と復習をあわせた平日の勉強時間は？　〔　　〕

1. 4時間以上
2. 3～4時間
3. 2～3時間
4. 1～2時間
5. 1時間以下
6. 全くしていない

・予習と復習をあわせた休日の勉強時間は？　〔　　〕

1. 4時間以上
2. 3～4時間
3. 2～3時間
4. 1～2時間
5. 1時間以下
6. 全くしていない

・レポート課題などの調べものをするときの情報源は？　〔　　〕

1. 教科書や参考書
2. インターネット
3. 教員
4. 友人や先輩
5. その他（　　）

・学習のためにインターネットを１日何時間くらい利用しますか？　〔　　〕

1. 2時間以上
2. 1～2時間
3. 1時間以内
4. 全く利用しない

・短大の授業は難しい？　〔　　〕

1. とても難しい
2. まあまあ難しい
3. あまり難しくはない
4. 全く難しくない

※1、2と回答した方　特に難しいと思われる科目はありますか？あれば列挙してください。

・夏休み中の編入/公務員講座に参加しましたか　〔　　〕

1. すべて参加した
2. ほぼ参加した
3. まあまあ参加した
4. ほとんど参加しなかった
5. 全く参加しなかった
6. 参加する予定はなかった

・夏休み中の編入/公務員講座以外の自主学習について　〔　　〕

１日あたりの学習時間は？（資格取得のための勉強時間は除く）

1. 4時間以上
2. 3～4時間
3. 2～3時間
4. 1～2時間
5. 1時間以下
6. 全くしていない

※学習した内容についてお聞きします。主にどのような目的で学習しましたか？

a.編入学試験に向けて　b.公務員試験に向けて　c.就職に向けて　d.資格取得に向けて

e.授業科目の習熟に向けて f.その他（　　）

・大分短大の教育全体の満足度は？　〔　　〕

1. 大変満足
2. まあまあ満足
3. あまり満足していない
4. 全く満足していない
5. どちらでもない

※主にどのような点についての回答か理由をお書きください。

表 2　学修および生活に対する質問項目

別添資料 2

・短期大学士力の修得状況についてお聞きします。該当する状況1～4を選択し書いて下さい。
1.大変よく修得している　3. あまり修得していない
2. まあまあ修得している　4. 全く修得していない

1. 社会科学と自然科学に関する基礎的な**技能**を修得している(一般教養**知識**)〔　　〕
2. 社会科学と自然科学に関する基礎的な**技能**を修得している(一般教養**技能**)〔　　〕
3. 専門分野に関する基礎的な**知識**を修得している(基礎的専門**知識**)〔　　〕
4. 専門分野に関する基礎的な**技能**を修得している(基礎的専門**技能**)〔　　〕
5. 専門分野に関する応用的な**知識**を修得している(応用的専門**知識**)〔　　〕
6. 専門分野に関する応用的な**技能**を修得している(応用的専門**技能**)〔　　〕
7. 倫理観や社会的責任など生活や仕事で必要な基礎知識を修得している(社会的基礎知識)〔　　〕
8. 多様な他者を理解し協調・協働して課題に取り組むことができる(多様性・協働性)〔　　〕
9.自ら課題を立て、課題解決に向けて計画し取り組むことができる(主体性・思考力・判断力)〔　　〕
10.他者にわかりやすく且つ的確に物事を伝えることができる(表現力)〔　　〕

・平日のアルバイトの状況は？〔　　〕
1. 毎日
2. 3～4日
3. 1～2日
4. アルバイトはしていない

・土/日のアルバイトの状況は？〔　　〕
1. 毎週している
2. 時々している
3. していない

・アルバイトの目的は？〔　　〕
1. 学費
2. 生活費
3. 小遣い
4. 社会勉強
5. その他(　　)

・あなたの平日の睡眠時間は？〔　　〕
1. 5時間以下
2. 5～6時間
3. 6～7時間
4. 7～8時間
5. 8時間以上

※1、2と回答された方に質問です。 睡眠時間の確保が難しいと思われる理由についてお書きください。

・朝食は食べていますか？〔　　〕
1. 毎日食べている
2. 時々食べないことがある
3. ほとんど食べない
4. まったく食べない

※3、4と回答された方に質問です。 睡眠時間の確保が難しいと思われる理由についてお書きください。

・学校生活以外のプライベートは満足していますか？〔　　〕
1. とても満足している
2. まあまあ満足している
3. あまり満足していない
4. 全く満足していない

表 3　ラーニングコモンズ室　使用状況について

ラーニングコモンズ使用状況　※平成28年10月より開設

平成28年度(10月～)		平成29年度(4月～)		平成30年度(4月～)	
同好会活動	1件	プレゼン練習―『人と農業』	7件	園芸研究	26件
		プレゼン練習―『園芸研究』	7件	イベントおよび準備	9件
		園芸研究	2件	プレゼン練習―『園芸研究』	3件
				ゼミ活動	3件
				自主学習	3件

編集委員

委 員 長　　小　石　鉄　兵

大分短期大学研究紀要　　第 17 号

平成 31 年 3 月 31 日発行

発行者　大分短期大学

〒870-8658　　大分市千代町 3 丁目 3－8

印刷所　(株)エポックアート

〒870-0942　　大分市羽田 984 番地の 1

Research Bulletin of Oita Junior College of Horticulture

Vol.17 March, 2018

Contents

Research Paper

KEN-ICHI YOSHINO,TATUKI SAITO,ERIKO ITO
TOMOO YOSHINO,TAKEFUMI ITO,YUDAI MAEDA
Determination of the number of seeds in a persimmon fruit by X-ray irradiation
. 1

Reports

HIROSHI SURIZAKI
The report of the project cooperated with university in regional revitalization:
"Autumn vegetables growing in Oita" 4

MATAKAZU KAGIWADA
Graduate questionnaire result 10

ONO NOBUYUKI,YUKI HASHIMOTO
Student Evaluation of Teaching in 2018 18

TEPPEI KOISHI
Learning and living conditions of student in OITA JUNIOR COLLEGE in Fiscal 2018
. 26

Published
by
Oita Junior College of Horticulture
3-3-8, Chiyomachi, Oita, Japan